

THE SAISON FOUNDATION ANNUAL REPORT

2015

April 2015
to
March 2016



THE SAISON FOUNDATION ANNUAL REPORT

2015

April 2015
to
March 2016

目次

ごあいさつ	4
事業概要	6
本年度の事業について	10
助成事業	15
I. 芸術家への直接支援	16
II. パートナースhip・プログラム	38
自主製作事業・共催事業等	57
事業日誌	68
会計報告	69
評議員・理事・監事・顧問名簿	71

TABLE OF CONTENTS

PREFACE
PROGRAM OUTLINE
ABOUT OUR PROGRAMS IN 2015
GRANT PROGRAMS
I. Direct Support to Artists
II. Partnership Programs
SPONSORSHIP, CO-SPONSORSHIP AND OTHER PROGRAMS
REVIEW OF ACTIVITIES
FINANCIAL REPORT
TRUSTEES, DIRECTORS, AUDITORS AND ADVISER

ごあいさつ

今年上梓された『セゾン文化財団の挑戦』（片山正夫著 書籍工房早山刊）の頁を繰っていて、当財団主催の「内なる国際化を目指して」と題するシンポジウムが、かつて京都で開かれたという記載が目にとまりました。1992年の開催ですから、私が最初に評議員としてこの財団に関わる10年近く前のことです。

なぜ目にとまったかといいますと、この「内なる国際化」という言葉にこめられた問いかけが、四半世紀近く経った今でもなお、重要な意味をもつと直感したからに他なりません。

国際化、あるいはグローバリゼーションは、現代の交通手段や通信技術の進歩の帰結であるかのようにはしばしば語られます。わが国の場合、近代化前の徳川幕府が鎖国政策をとっていたために、殊にそう感じてしまうのかもしれませんが。しかし、私が個人的に関心を寄せている奈良時代などは、ある意味で日本は非常に国際化していたといえます。たとえば752年に行われた東大寺の大仏開眼供養では、インドの僧正が導師を務め、中国、朝鮮、タイ、ベトナムなど様々な国から人々が列席して、度羅楽、高麗楽、林邑楽など各国の舞が披露されました。飛行機もインターネットもない当時の奈良の都は、今でいう国際都市だったのです。

翻って現在、日本では、海外からの訪日客を2020年までに4000万人にするとか、インバウンド消費がどれだけ増加したといった議論が盛んに行われ、一見グローバル化がますます進捗してきているかのようです。ただ一方で、これは日本に限りませんが、若者の「内向き」化が言われ、排他主義的な言辞や行動は、むしろ勢いを増しているようにさえ見えます。

おそらく、交通や通信の進歩だけが国際化をもたらす要件なのではなく、また国際化の度合いは人やモノの行き来だけで測れるものではないということでしょう。重要なのは、お互いを理解し尊重する精神が、個々人のうちにどれだけ根付いているかということではないかと思います。

当財団が継続的に支援しているさまざまな芸術交流も、そうした「内なる国際化」に貢献するものであることを強く期待しています。今後も皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いする次第です。

公益財団法人セゾン文化財団

理事長 伊東 勇

Preface

Browsing through *The Challenge of The Saison Foundation* (Masao Katayama, Shosekikobo Hayama Publishing Co., Ltd.) that was published this year, I was drawn to a comment on a symposium in Kyoto entitled "Toward Internal Internationalization" organized by the Foundation. It was in 1992, ten years before I began to be involved in the Foundation as a trustee.

It drew my attention because I had a hunch that the question that the term "internal internationalization" implied would still mean a lot now, almost 25 years after the symposium.

Internationalization, or globalization, is often said to be the result of the improvement in transportation and communication in the contemporary world. Especially in Japan, probably due to the national isolation policy of the Tokugawa Shogunate before the modernization, we tend to feel that way. However, for example, the Nara Period was in a sense very international, which I have personally been interested in. The ceremony for the Great Buddha statue at Todaiji Temple in 752 had an Indian monk officiate the ceremony, invited many people from China, Korea, Thailand and Vietnam, and presented different dances that are said to have come from Burma, Korea or Vietnam. Nara, in an age without the Internet or airplanes, was what is now called an global city.

Meanwhile, there have been a lot of discussions about having 40 million international visitors by 2020 or the increase of their consumption in Japan. It seems that, at first glance, Japan has become more global. However, not only in Japan, young people have become more and more introverted, and exclusive discourses and behaviors have been more and more active.

Probably the improvement in transportation and communication is not the sufficient condition of internationalization, and the degree of internationalization cannot be measured only by the traffic of people and things. I think that what is important here is how the spirit of mutual understanding and respect has been established in each and every individual.

I strongly hope that the diverse artistic exchange, which we have continuously been supporting, contributes to the "internal internationalization." I look forward to your continued guidance and encouragement.

Isamu Ito
President, The Saison Foundation

2015年度事業概要

助成事業

I. 芸術家への直接支援

1. 現代演劇・舞踊助成 — セゾン・フェロー

演劇界・舞踊界での活躍が期待される劇作家、演出家、または振付家の創造活動を支援対象としたプログラム。フェローに選ばされると、自らが主体となっていく創造活動に当財団からの助成金を充当することができるほか、必要に応じて稽古場、ゲストルームや情報の提供が受けられる。原則として、ジュニア・フェローは2年間、シニア・フェローは3年間にわたって助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象は、下記の条件を満たしている劇作家、演出家、または振付家。

ジュニア・フェロー

- ・日本に活動の拠点を置いている
- ・申請時点で35歳以下である
- ・申請時点で過去3作品以上の公演実績がある

※ただし、過去に当財団の「芸術創造活動Ⅰ」プログラムで支援を受けた芸術団体の主宰者は対象外。

シニア・フェロー

- ・日本に活動の拠点を置いている
- ・原則申請時点で45歳以下である
- ・申請時点で過去3作品以上の公演実績がある
- ・以下のいずれかの要件を満たしている
 - ・劇団／ダンスカンパニーの主宰者としてセゾン文化財団の助成歴がある
 - ・戯曲賞／演出家賞／振付家賞等の受賞歴がある
 - ・海外の著名なフェスティバル／劇場から招聘歴がある

※ただし、過去に当財団の「芸術創造活動Ⅱ」プログラムで支援を受けた芸術団体の主宰者は対象外。

2. 現代演劇・舞踊助成 — サバティカル(休暇・充電)

日本を拠点に活動する劇作、演出、振付の専門家として5年以上の活動歴を有し、1ヶ月以上の海外渡航を希望する個人に対し、100万円を上限に、渡航費用の一部に対し助成金を交付。申請時点までに継続的に作品を発表・制作し、一定の評価を受けているアーティストで、2015年度中にサバティカル(休暇・充電)期間を設け、海外の文化や芸術などに触れながら、これまでの活動を振り返り、さらに今後の展開のヒントを得たいと考えている者を優先する。

自主製作事業・共催事業等

II. パートナーシップ・プログラム

「パートナーシップ・プログラム」では、芸術創造を支える機関・事業や、国際的な芸術活動を展開する個人／団体を当財団のパートナーとし、日本の舞台芸術の活性化や国際的な協業の推進を目指している。

1. 現代演劇・舞踊助成 ―創造環境整備

演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流など芸術創造を支える環境の整備を目的とした助成プログラム。現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その創造的解決を目指した事業に対し、企画経費の一部を助成し、希望者には森下スタジオ、ゲストルームを提供する。原則として同一テーマ／企画の継続助成は3年間を限度とする。

2. 現代演劇・舞踊助成 ―国際プロジェクト支援

演劇・舞踊の国際交流において特に重要な意義をもつと思われる複数年にわたる国際プロジェクトへの支援を目的とした助成プログラム。海外のパートナーとの十分な相互理解に基づき、発展的に展開していくプロジェクトを重視。リサーチや、ワークショップなどプロジェクトの準備段階から、申請することが可能。企画経費の一部に対して助成金を交付。希望者には森下スタジオ、ゲストルームを提供。3年を上限として助成を行う。対象となるのは、日本と海外双方に事業のパートナーが決定しており、申請時点で国際交流関係の事業の実績を持つ個人／団体。

3. 芸術交流活動[非公募]

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づいた芸術創造活動、日本文化紹介事業等に対して資金を提供する。

フライト・グラント

海外からの招聘に伴う渡航費が緊急に必要な場合の支援プログラム。

自主製作事業として ヴিজティン・フェロープログラム、セミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレターの刊行などを行う。

共催事業では、日本の舞台芸術界を活性化させるために非営利団体等と協力して事業を実施する。

PROGRAM OUTLINE –2015

GRANT PROGRAMS

I. Direct Support to Artists

1. Contemporary Theater and Dance - Saison Fellows

This program supports creative activities and projects by promising playwrights, directors, and choreographers. Fellows will be awarded grants that they may spend on their creative work, priority use of the Foundation's rehearsal and residence facilities in Tokyo (Morishita Studio), and may receive information services that are necessary to their work. Junior Fellows (artists that are thirty-five years old or younger) will receive ¥1,000,000 for two years in principle; Senior Fellows (artists that are forty-five years old or younger) will receive grants (Range of grants given in this program in 2015: ¥2,500,000 - ¥3,000,000) for three years.

2. Sabbatical Program

This category gives partial support to individuals who wish to travel abroad to come into contact with intercultural experiences by awarding fellowships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) a base in Japan; (b) more than five years of professional working experience in one of the following occupations: playwriting, directing, or choreography; and (c) plan to travel abroad for more than one month.

Priority will be given to artists who have been creating and presenting works continuously until the time of applying to this program, have an established reputation in their respective fields, and are considering to take a sabbatical leave during fiscal year 2015 to review their past activities and receive inspiration for future activities through inter-cultural experiences.

II. Partnership Programs

1. Contemporary Theater and Dance - Creative Environment Improvement Program

This program supports workshops, conferences, symposia, and other projects aimed to improve the infrastructure of the contemporary performing arts community in Japan. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request.

2. Contemporary Theater and Dance: International Projects Support Program

A grant program that awards long-term grants to international exchange projects in which contemporary Japanese theater or dance artists/companies are involved. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan or have partners in Japan, and (b) with a history of artistic achievements in the area of intercultural exchange activities at the time of application.

3. Artistic Exchange Project Program (designated fund program)

This designated fund program supports activities by not-for-profit organizations outside of Japan with a continuous partnership with the Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

Flight Grant

This outbound (from Japan to overseas) program supports those in immediate need of travel funds.

SPONSORSHIP, CO-SPONSORSHIP PROGRAMS

Apart from making grants, The Saison Foundation sponsors and organizes a Visiting Fellows Program, seminars, workshops, and symposia, and publishes a newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, The Saison Foundation also organizes projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program.

本年度の事業について

常務理事 片山正夫

本年度は、現代演劇・舞踊分野を中心に、55件の助成を行った。助成総額は、前年に比べ6%増額し、6351万円となった。

また、海外から4名のヴィジティング・フェローを招聘し、2件の共催事業を行った。このほか、研究会を1件開催し、前年度に文化庁と共催した「ダンス・アーカイブの手法」のフォローアップ事業3件に協力した。詳しい催行状況については、各プログラムの報告を参照していただきたい

当財団の活動の特色のひとつは、助成金だけでなく、他の方法も併せて助成先を支援していく点にある。代表的なものが、森下スタジオを活用した「場」の提供だ。助成対象者の必要に応じて、廉価でスタジオをお貸ししている。近隣の水天宮ビットなど、稽古場支援が以前より普及したとはいえ、東京周辺で活動する若手芸術家が作品製作の場の確保に苦勞する状況は、森下スタジオが開館した当時と大きく変わっておらず、貸し出しのニーズは依然として高い。

舞台作品の場合、作品の特性上、長期間にわたってひとつのスペースを独占的に使用しなければ製作が困難なケースがある。最近ではその典型が、タニノクロウ氏による演劇の仕事であった。

タニノ氏はかつてマンションの自室を「はこぶね」と称し、そこを作品製作・発表の拠点としていたが、ほどなく再開発のため立ち退きを余儀なくされた。しかし同時期にセゾン・フェローに採択されていたことから、森下スタジオでの作品製作を本格的に始めることになった。

ちょうど2期に亘るジュニア・フェローの助成期間を終え、シニア・フェローに移行した2012年度のこと、「森下でなければ創れない作品を創りたい」というタニノ氏の要望に応え、当財団は例外的な長期間、森下スタジオを提供することに同意した。氏の作品は、自身の手になる独特な舞台装置に大きな特色がある。それは作品の一部であることはもちろん、演出の一部でもあり、戯曲とも不可分なものだ。氏は、それまでより広く、かつ制約の少ないスペースを得ることで、大きくスケールアップした舞

台装置の製作に取り組み、それによって新たな作品世界に到達することに成功した。

その「森下スタジオ発」の第一弾作品が、2013年春に同スタジオで初演された『大きなトランクの中の箱』であり、これは翌年の欧州ツアーでも大きな賞賛を得ることになった(当財団はその際、ツアーの受け入れ先に対しても助成を行っている)。

本年度、当財団との共催事業として、同じく森下スタジオで製作され初演された『地獄谷温泉 無明ノ宿』は、その第二弾である。今回も作品の評価は非常に高く、タニノ氏による戯曲は、選考委員の満場一致で第60回岸田國士戯曲賞を受賞することになった。本作品は今後、国内外での上演が予定されている。

芸術助成において、その成果をどう認識し、評価するかはいつも議論になるところだ。われわれもそのことに長く関心をもち続けてきたが、このタニノ氏の事例は、助成の成果というものを考えるうえで非常に示唆的であったといえる。

セゾン・フェローで当財団が支援対象としているのは、芸術家の創造活動そのものであり、個々の公演ではない。そのため助成の評価は、助成期間中に生じた変化、すなわち作品や活動の展開、さらにそれらが社会にどう受容され影響を与えたかという点に根拠を求めることになる。当然、そのためには長い期間が必要だ。当財団が複数年の支援を基軸に置いているのも、ひとつはそこに理由がある。タニノ氏の場合、セゾン・フェローとして当財団が支援した期間だけで通算7年にも及ぶが、この間の目覚ましい展開はそのまま、(すべてが助成の結果とはもちろん言わないが)われわれが認識すべき助成の成果の分母となる。『地獄谷』はまさにその到達点であった。

さらにいうと、当財団の助成プログラムの独自性が、芸術家の変化にどう寄与したかという点も、じつはわれわれにとって、もうひとつの大事なポイントである。タニノ氏がセゾン・フェローに採択されたことによって、森下スタジオの空間に出会い、空間に出会ったことによって『大きなトランク』や『地獄谷』が生まれ、そしてこれらの作品が生まれることが、また別の誰かの想

像力を喚起していく。こうした“物語”がもつ説得力の度合いこそが、いわばセゾン・フェローという助成プログラムの評価基準なのだ。

公演単位の助成では、成果を測る尺度は入場者数や、観客の“満足度”といったものに頼らざるを得ない。それらは確かに客観的に数値化できるかもしれないが、当財団の主たる関心はそこにはない。われわれが求めているのは助成先の変化であり、それに当財団のプログラムがどう寄与できるかだ。それだけに、それぞれの芸術家の特性はもちろん、助成を開始する時期が本当に適切かどうかを注意深く見ていくことが、今後われわれにとって選考の際の重要な視点となるだろう。

このほか、本年度は新しい取り組みとして、「舞台芸術の観客拡大策に関する研究会」を5回シリーズで開催した。観客づくりは芸術団体、劇場、フェスティバルにとって永遠の課題といえるが、とくに当財団が支援対象としている現代演劇・現代舞踊の世界においては、顧客層が小さく固定化してしまっているように見える。たとえば、一般企業に勤める男性ビジネスマンが、仕事帰りや休日に現代舞踊を観に来るというのは、まだまだ稀なことだ。たしかに舞台にのぼる作品は質量ともに充実したかもしれないが、観客のこうした状況は、当財団が助成を始めて以来、ほとんど変わっていないといつてよいのではないか。

もちろん現場では、顧客獲得に向けてそれぞれに努力がなされている。だが、多忙であることもあり、時間をかけて新しい手法を開発したり、試行したりすることができず、マーケティングや広報は、ともすればルーティン化したものをこなすだけになりがちである。

何かいままでのやり方にとらわれない発想で、効果的な施策を考えることはできないか？ 面白いアイデアであれば、実際に試して効果をきちんと検証してみてもどうか？ もし効果が認められたなら、そのデータは公開して誰もが利用できる共有の財産にすべきではないか？

本研究会はそうした意図で立ち上げられた。全国16団体から19名の実務家が森下スタジオに参集し、モデレーターの指導の

もと、さまざまなアイデアが検討され発表された。当財団では来年度以降、このうちのいくつかを助成して具現化し、その成果を継続的にモニタリングしていきたいと考えている。

また本年度は、年4回発行しているニュースレター「viewpoint」のリニューアルを行った。もっとも大きな変更は、各号にテーマを設けたことである。「viewpoint」はこここのところ、助成対象事業の報告記事が誌面のほとんどを占めるようになってきていた。もちろん個々の記事は記録的な価値もあり、内容もそれぞれに興味深いものなのだが、「当財団の関心の所在や問題意識を伝える媒体」という、20年前の創刊時に掲げた趣意については、やや薄れつつある印象も否めなかった。

その点でいえば、一号一号特集テーマを掲げるほうが、当財団が何に関心をもっているかを読者に伝えやすいのは確かだ。「日台文化交流をめぐって」(第71号)、「劇場の外へ」(第72号)、「『連歌』の思想と芸術交流」(第73号)、「正直、オリンピックってどうですか？」(第74号)と今年のテーマを並べてみただけで、それは明らかだろう。今後も、議論を喚起するような刺激的な投げかけを行っていければと思う。

本年度の助成先の選考に際しては、下記の方々にご協力いただきました。有益なご示唆を頂戴しましたことに、深く感謝申し上げます。

内野 儀 (東京大学大学院総合文化研究科教授・
当財団評議員)

唐津絵里 (愛知県芸術劇場シニアプロデューサー、
あいちトリエンナーレ2016キュレーター)

佐々木 敦 (批評家、早稲田大学文学学術院教授)

徳永京子 (演劇ジャーナリスト)

乗越たかお (作家・舞踊評論家、

株式会社ジャパン・ダンス・プラグ代表)

武藤大祐 (舞踊評論家・群馬県立女子大学准教授)

(敬称略・肩書は2014年12月当時)

About Our Programs in 2015

Masao Katayama
Managing Director

We awarded grants to 55 projects mainly in the field of contemporary theater and dance in 2015. The total amount of the grants was 63,510,000 yen, which was 6% larger than the previous year.

We also invited four Visiting Fellows from overseas and had two co-sponsorship programs. In addition, we held a seminar and cooperated with three follow-up projects of "Archiving Dance" that we co-organized with the Agency for Cultural Affairs. Please refer to the reports of the programs for details.

One of the characteristics of our activity is that we do not only offer grants but also use other methods to support the grantees. The main nonmonetary support that we offer is "space," namely Morishita Studio. The Studio is offered at reasonable prices in accordance with the grantees' needs. While support by offering rehearsal space has become more popular than before as seen in the service of Suitengu Pit in the Studio's neighborhood, the situation where young artists who work in the metropolitan area cannot find space for creation easily has not been so different from the time when Morishita Studio opened. We still receive a lot of requests.

In performing arts, sometimes a creation requires an exclusive, long-term use of a space. A recent typical example that we supported is Kuro Tanino's theater work.

Tanino used to create and present his pieces in his own apartment that he called "Hakobune (Ark)," but he had to leave the apartment due to redevelopment of the area. Since he was selected as a Saison Fellow at that time, he started to work on a full-scale creation at Morishita Studio.

After his two Junior Fellow terms, he entered a Senior Fellow term in 2012, and proposed that he would create a piece that can only be done only at Morishita Studio. In response to the proposal, we offered him the Studio for an exceptionally long period. His works involve very unique stage design by himself. It is not only a part of a work but also dramaturgically inseparable from his direction and writing. The bigger space with less restrictions let him work on a much larger

stage set, which successfully resulted in a new phase of his creation.

The first "made in Morishita Studio" piece was *Box in the Big Trunk*, premiered at the Studio in spring 2013. It toured in Europe next year and was well received (we supported the local organizers of the tour too).

The second piece *Avidya — The Dark Inn*, also created and premiered at Morishita Studio as a joint project with the Foundation, was well-received too and the 60th Kishida Kunio Drama Award was given by a unanimously decision of the juries to the play by Tanino. The piece is going to be presented in Japan and abroad.

How to recognize and evaluate the result of a grant made to an artistic activity has always been an issue. We have long been interested in the issue, and the case of Tanino was very suggestive in that context.

What we support through the Saison Fellow programs is not individual performances but the artists' creative activities, so the evaluation of the grants should be based on changes that occur during their grant-receiving terms, i.e., the development, and then the social recognition and impact, of their works and activities. It is obvious that this requires a long period of engagement, and that is one of the reasons why we put importance on multi-year support. We have supported Tanino for a long time, for seven years even if we only count his years as a Saison Fellow, and the remarkable improvement during these years (I would not dare to say that our support was the only driving force, of course) immediately becomes a denominator of our recognition of the result of our support. *Avidya* was indeed an achievement in this sense.

Another important point for us is how the uniqueness of our programs has contributed to changes that have occurred in an artist's activity. Tanino was selected as a Saison Fellow, which introduced him to the space of Morishita Studio. The encounter with the space led him to the creations of *Big Trunk* and *Avidya*. And these creations inspire other people's imagination. The degree of persuasiveness of this

kind of "story" is the evaluation basis of the grant program called "Saison Fellow."

There is no choice but to refer to the number of audience members or their "satisfaction level," when it comes to a grant for a production, to evaluate its result. It is true that this kind of evaluation can be objective and numerical, but our main interest does not lie there. What is important for us are changes of the grantees and our programs' contribution to them. Therefore, not only the characteristics of each artist but also an appropriate timing of starting to give them a grant should remain important points of view in our selection process.

A new project that we organized this year was "Seminars on Audience Cultivation in Performing Arts," a series of five seminars. Audience cultivation must be a never-ending task for arts organizations, venues and festivals, and especially in the field of contemporary theater and dance that our support is targeted at, it seems that the types of audiences have been limited and fixed. For example, it is still rare that a businessman in the private sector sees a contemporary dance performance after work or on a holiday. It is true that the quality and quantity of productions have improved, but it seems that this situation of audiences has not changed since when we started our grant programs.

Of course, people working in the field have made various efforts for gaining new audiences. However, they are too busy to take enough time to develop or test new methodologies, so their marketing and public relation activities tend to end up in repeating the routines.

Isn't it possible to conceive an effective methodology freely from what has been done? If one conceives an interesting idea, why don't they test it and verify its effect? If it is proven to be effective, shouldn't the data be published and offered for other people's use?

The seminars started in response to these questions. 19 practitioners from 16 groups across Japan got together at Morishita Studio, and facilitated by the moderator, they presented and examined various

ideas. We intend to start supporting some of these ideas, realizing them and monitoring their results next year.

We renewed our quarterly newsletter *viewpoint* this year. The largest renewal was that we set a theme for each issue. Recently, most of the contents of *viewpoint* was the reports on projects that we support. Of course, each report is a valuable documentation and interesting, but the concept, "a magazine that communicates the Foundation's interest and awareness," which we had when we published the first issue 20 years ago, seemed to have been becoming less prevailing.

Then, having a theme for each issue should help communicate our interest to the readers, for which the themes of this year must speak: "Cultural Exchange between Japan and Taiwan" (no. 71), "Going Outside the Theater Hall" (no. 72), "The Philosophy of 'Renga' and Arts Exchange" (no. 73) and "Honestly Speaking, What Do You Think of the Olympic Games?" (no. 74). We will continue to propose themes that stimulate discussion.

We would like to thank the following persons who assisted us during the selection process for their helpful instructions:

Eri Karatsu (Senior Producer, Aichi Art Theater / Curator, Aichi Triennale 2016)

Daisuke Muto (Dance Critic / Associate Professor, Gunma Prefectural Women's University)

Takao Norikoshi (Critic/Director, JAPAN DANCE PLUG Co., Ltd.)

Atsushi Sasaki (Critic / Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University)

Kyoko Tokunaga (Theater Journalist)

Tadashi Uchino (Professor, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo / Trustee of The Saison Foundation)

(Titles are of December 2014)

GRANT PROGRAMS

助成事業

I 芸術家への直接支援

Direct Support to Artists

現代演劇・舞踊助成
—セゾン・フェロー—

Contemporary Theater and Dance
—Saison Fellows

このプログラムは、対象となる劇作家／演出家／振付家が主宰または所属する劇団やダンスカンパニー以外の芸術活動にも助成金を使用できることが特徴である。公演などの事業はもちろん、リサーチ、芸術家としての自己研鑽のための勉強や研修などにも使用することで、芸術家としての幅を広げてもらうことを意図している。助成金の交付の他、スタジオおよびゲストルームの提供による支援を行っている。

2015年度の演劇分野への申請者には、首都圏、関西以外の地域での公演を行う人が増えており、それは公共ホールのネットワークが整ってきたためと考えられる。また、小劇場で実験的な思考をもって活動してきた人の中に、商業劇場での活動に機会を得る人が出てきている傾向も見られる。舞踊分野では海外での活動が多い人は継続してプロフェッショナルな活動を行っていくとしており、国内ではコミュニティーダンスにおいて活躍の場を見出している人達もいる。

ジュニア・フェロー

35才以下を対象とするジュニア・フェローでは、演劇分野から

カゲヤマ 気象台、神里雄大、柴幸男、杉原邦生、西尾佳織、山本卓卓、舞踊分野から川村美紀子、振子びじんの8名が選抜された。神里は2011–2012、2013–2014年度、柴は2010–2011、2012–2013年度、杉原、川村は2013–2014年度のジュニア・フェローに引き続いての助成となる。

カゲヤマ 気象台は「sons wo:」の代表として、劇作、演出、音響デザインを主に担当。東京の他、出身地の浜松でも活動を行っている。「開かれた自己内省の場」としての演劇上演を提唱し、2013年にフェスティバル/トーキョー13 公募プログラムに参加。2014年には利賀村演劇人コンクール奨励賞を受賞した。今年度は2作の公演の他、浜松での活動に向けたリサーチを複数回実施し、公演も1回行った。今後は浜松にとどまらず、東海地域を視野に入れていくとのことである。

西尾佳織は劇作家、演出家で「鳥公園」を主宰。社会の「正しさ」から外れるものをすくい上げるような演劇活動を、俳優と共に集団で構築する。サイトスペシフィックな作品にも取り組んでいる。フェスティバル/トーキョー14の主催プログラムで作品を発表した他、日本演出家協会の若手演出家コンクール2015で最優秀賞を受賞した。今年度は京都と東京で行った劇団の本公演のみならず多様な活動を行った。2016年度にはドイツのフェスティバルの演劇人プログラムや、瀬戸内国際芸術祭への参加も決まっており、活躍の場も広がっている。

山本卓卓は劇作家、演出家、映像制作者で「範宙遊泳」を主宰。音、光、映像、文字等と俳優を組み合わせた演出をもとに、生と死、有機物と無機物などの境界を溶解しながら、人間の機微を描く作品を発表している。2014年からアジアでの活動を展開し、TPAM in Yokohama (Performing Arts Meeting in Yokohama) の主催プログラム公演も行っている。今年度はタイでの共同制作から刺激を受け、そこから多くを学び考えたそうで、当面は海外活動を増やしていく意向である。

振子びじんは振付家で、舞踏で培った身体をもとに、他者の体との差異に注目し、身振りを比較・交換したり、「身体のアークタイプ」を見る視点で構成するドキュメンタリー的な作風を特徴とする。近年はキュレーターとしての仕事も委嘱されている。2011年に、横浜 ダンスコレクションEX審査員賞、F/T (フェスティバル/トーキョー) アワードを受賞した。今年度は約1年半ぶりとなる新作公演の他、今後の創作に向けての韓国でのリサーチ、岡田利規作品への出演の他、2016年5月に韓国、光州のアジアンアーツシアターで行われた「土方巽」プロジェクトのキュレーターに起用され、そのための準備に多くを費やした1年となった。

またジュニア・フェロー5名が本年度で2年間の助成対象期間終了となった。

木ノ下裕一は、活動の規模が大きく拡大した2年間であった。『黒塚』では国内ツアーとバリ公演を行い、バリでも複数の劇評が出て好評を得た。また『三人吉三』は読売演劇大賞上半期に

ノミネートされるなど、国内での評価も高まっている。作品の上演だけではなく、「木ノ下歌舞伎書」の発行、レクチャーやアフタートークなど、「古典の現代化」を観客により良く理解してもらうための事業にも熱心に取り組んだ。今後は海外での活動も広げ、多くの海外の観客にも日本の古典の現代化作品を体験してもらいたい。

藤田貴大は、公共ホールとの大規模な事業や海外での活動が増えた2年間だった。公共ホールでの事業として、2013年初演で評価の高い「cocoon」の全国ツアー、野田秀樹や寺山修司の作品の演出など挙げられる。海外においては、イタリアでの活動を継続しており、共同創作が本格化する予定である。若手を代表する劇作家、演出家であり、今後は演劇界はもとより、それに留まらない影響を与えるような活動に期待したい。

村川拓也は2014年度に作った2作品を2015年度に再演し、じっくりと時間をかけて作品と取り組んだ2年間となった。『エヴェレットゴーストラインズ』は韓国での滞在制作と上演の機会も得た。作品と丁寧に向き合う中で、創作の根幹や活動の方向性も再認識あるいは明確化したようだ。ベルリンの劇場「Hebbel am Ufer」での公演、ブリュッセルのクステン・フェスティバルデザールの若手演劇人プログラムへの参加、KYOTO EXPERIMENT公式プログラムとしての上演など機会にも恵まれてきており、国内外でのより一層の活躍に期待したい。

KENTARO!!のこの2年間には、カンパニーメンバーそれぞれの活動や活躍も目立った。それがカンパニー作品の充実につながり、見応えのある作品が発表された。近年は演劇作品も手がけているが、戯曲を書くことで振付を見直すことにもなっているようで、今後のダンス作品への影響も期待できそうだ。海外公演、イベントの企画・運営も継続されている。将来の活動形態としては劇場のレジデンスカンパニーという目標を持っており、作品においてはコンセプチュアルな作品創作などを考えているとのこと、いずれの展開も楽しみである。

関かおりは、1年に1本ずつ丁寧に作られた新作を発表した。非常に緻密に振り付けられ、緊張感の漲る上演が特徴だが、最新作においては、それぞれのダンサーが担う比重が増しているように、成長の証と思われた。批評家による公演評も複数書かれており、TPAMで来日した海外の関係者の評判も上々で、今後の活動にもつながってきている。この作品は創作過程でも変化があったようで、今後もよい成果が期待できそうだ。カンパニーメンバーも増え、カンパニー自体が少ない現在のコンテンポラリーダンス界において、どのように活動を展開させていくのかも含めて注目したい。

シニア・フェロー

原則45才以下を対象とするシニア・フェローでは、演出家、「東京デスロック」主宰者の多田淳之介、振付家、演出家、ダンサーの森下真樹、舞踊、美術の領域で活躍する「contact

Gonzo」の主宰者の塚原悠也が新規に採択された。

多田淳之介は、ジュニア・フェロー(2009–2010年)、国際プロジェクト支援「カルメギプロジェクト」(2012–14年)を経て、今年度よりシニア・フェローになった。富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督を務め、今年度より高松市の文化芸術に関する取り組みについて指導・助言を行う「高松市アートディレクター」にも就任。市民劇の立ち上げ、教育機関での講師など、幅広い活躍をこの10年ほど継続している。地域では「後に何を残せるか」を主眼に活動を行っているという。海外活動も、韓国との関係をより深めていく一方、東/東南アジアにも活動領域を拡げていく考えだ。今年度は新人メンバーも参加、主宰する東京デスロックの『Peace (at any cost ?)』では、アリストパネスの「アカルナイの人々」に触発された「平和」をテーマにした作品を発表。京都、香川、青森、埼玉で上演された。これらの多彩な活躍は、この10年余りの活動の蓄積によって、現れた成果とも言える。

森下真樹は、2003年に初のソロ作品『デビュタント』を発表後、横浜市芸術文化振興財団賞、東京コンペ#2で優秀賞を受賞。幅広い世代をダンスの楽しさに誘うワークショップや創作活動が評価され、地域での活動や舞踊以外の分野との協働作業が増えている。今年度は、可見市文化創造センターで、市民100人と共に、ベートーベンの「運命」のオーケストラ生演奏で、ダンス作品を創作した。また、2013年に初演された美術作家の束芋との協働作業、『錆からでた実』の再創作に向けてのリサーチを継続して行った。2016年に新たな視点で再創作された本作品の上演を予定している。支援対象の3年間は、振付のみならず、自身が振付されること、異分野アーティストとの協働作業、舞踊以外の表現活動にも触手を伸ばしていく計画だ。

塚原悠也は、ジュニア・フェロー(2013–14年)を経て本年度よりシニア・フェローになった。申請当時の年齢は、ジュニア・フェローへの継続申請の可能性もあったが、本人の将来的な活動計画の中で規模拡大のタイミングを見計らい、シニア・フェローへの申請を決めたという。ここ数年は格闘のように見えるパフォーマンスから、作品の幅を拡げ、映像、写真作品なども発表。2014年に発表した振付作品「訓練されていない素人のための振付コンセプト001/重さと動きについての習作」の所有権を、複製可能な限定部数を決め販売するというような新たな流通経路開拓の試みも開始している。同じく2014年には丸亀市猪熊弦一郎現代美術館のパフォーマンスを紹介するシリーズ〈PLAY〉において3年間の継続上演も決まった。ダンスと美術の現場の交差、融合を推進し「コンテンポラリーダンス」の先を開拓している。

作家、演出家の前田司郎、振付家、ダンサーの黒田育世、演出家、振付家の向雲太郎の3氏は2013年度からシニア・フェローの支援を開始し、本年度で3年間の助成対象期間終了となった。

前田司郎は、かつて若手芸術家の観劇支援を目的とした「若手奨励助成」、日仏共同制作「understandable?」の海外公演で支援してきたが、ついで、ジュニア・フェローに申請して来ることはなく、2012年にシニア・フェローに申請をしてきた。目的は明快で、劇団の国内活動については、持続可能な運営を考えると極力自力で運営していきたい。しかしながら、海外公演については、経済的に如何ともし難い事情があり、この活動についてのみ支援が欲しいというのである。実際、助成期間中は、前田が主宰する「五反団」の海外招聘や協働事業が続き、助成金はこれらの事業の不足分を補うために使用された。劇団やアトリエの運営が経済的に万全に回っているということではなく、それらに使用してもらっても一向に構わなかったにもかかわらず、最終年度では助成金を全額使用することなく律儀に返金があった。海外交流に加え、文学、映画分野でも独自のポジションで活躍を展開した3年間となった。

黒田育世は、2002年のデビュー以来、破竹の勢いで日本の現代舞踊を代表する振付家としての評価を獲得、国内外で活躍を続けてきた。2005年に「芸術創造支援プログラム」でカンパニーBATIKを支援し始めた当初より、新作発表に加え、カンパニーメンバーの育成、レパトリーの継承は、黒田の重要な関心事だった。森下スタジオで継続している「トライアル」や「レパトリーシリーズ」などで若手に創作発表やダンス教育の場を設け、弛まぬ努力を続けた結果が現在のカンパニー活動の基礎体力になっている。また、「舞踊」への探求心が強くあり、創作とは別に民俗舞踊の調査研究やセミナー、ワークショップ「ダンス・アーカイブの手法」に参加、思考を深める時間を持った。旺盛な創作意欲の一方、私事では様々な困難があった3年間だったが、全ての事象を作品に繋げるエネルギーは堅持し続けて欲しい。

向雲太郎は、18年在籍した磨赤児率いる舞踏カンパニー大駱駝艦を2012年退団し独立、ソロ活動を経て、2015年に『ふたつの太陽』にてカンパニー「デュ社・Deux Shrine」を旗揚げした。シニア・フェローでは、独立から旗揚げまでの3年間の支援したことになる。大駱駝艦での活動で作品については、すでに高い評価を受けていた向だが、個人活動を開始するにあたり、制作支援が整った環境から一転して何もかも自身でこなさなければならない状況は、厳しかったに違いない。が、創作については、「踊りとは何か？ 新しい舞台表現とはどういうものか？」という「舞踊」に対する根源的な問い掛けが原動力となり、精力的に模索し活動した期間となった。支援期間中の最終年度2016年2月に発表したソロ公演「舞踏？ プレゼンテーション・ショウ/A la maison de M.MUROVECI」は、独立以降の総括でこれからの方向をしめすスタートとも言える作品となった。

それぞれの3年間の活動については、批評家、研究者の方々の総括していただいた。

また、各フェローの本年度の活動概要については後述のデータ編を参照されたい。

This program lets the playwrights, directors or choreographers who receive the grant use it also for their activities outside of the theater or dance companies that they represent or belong to. It is intended not only for performance projects but also for research or study and training for the artists' self-development. In addition to the grants, we offer priority use of Morishita Studio and its guest rooms.

The fact that many of the applicants from the field of theatre in 2015 were performing in other places than the metropolitan and Kansai areas seems to speak for the improvement of public halls' network. It also seems that some people who had worked in the field of small and experimental theatre have been receiving offers from the mainstream recently. In the field of dance, artists who have been active overseas are seeking to continue their professional activities, and some of those who work mainly in Japan have been contributing their ability to community dance.

Junior Fellows

In 2015, eight artists – Kishodai Kageyama, Yudai Kamisato, Yukio Shiba, Kunio Sugihara, Kaori Nishio and Suguru Yamamoto from the field of theater and Mikiko Kawamura and Pijin Neji from dance – were selected as Junior Fellows, which is for artists younger than thirty-five years old. We supported them in continuation of the 2011–2012 / 2013–2014 (Kamisato), 2010–2011 / 2012–2013 (Shiba), and 2013–2014 (Sugihara and Kawamura) Junior Fellow terms.

Kishodai Kageyama, who represents “sons wo:,” mainly works on playwriting, direction and sound design. He works not only in Tokyo but also in Hamamatsu, where he is from. Advocating for the theater as an “open space for self-reflection,” he took part in the Emerging Artist Program of Festival/Tokyo 13, and received the encouragement prize of Toga Theater Competition. He presented two works, and carried out research projects aiming for his future activities in Hamamatsu, where he also presented a work, in 2015. He has his sights set onto the whole Tokai area, not only Hamamatsu.

Kaori Nishio is a playwright and director who leads “Bird Park.” Collectively with the performers of the company, she builds theatrical activities that rediscover what deviates from the “norms” of society. They also create site-specific works. She presented a piece at the main program of Festival/Tokyo 14, and received the best director prize at the young director competition of the Japan Directors Association in 2015. Her activities, in addition to the company's performance in Kyoto and Tokyo, in 2015 was diverse. She is going to take part in a German festival's program for theater practitioners and Setouchi Triennale in 2016.

Suguru Yamamoto is a playwright, director and visual artist who leads “HANCHU-YUEI.” Combining sound, light, visual images, text projection and physical performance, his works blur the boundaries between life and death or the organic and inorganic to depict the subtleties of human nature. He has been

developing projects in Asia since 2014 and taken part in the program of TPAM in Yokohama. He was inspired by and learned a lot from a co-production in Thailand in 2015, and is planning to focus on international activities.

Pijin Neji, a choreographer and a dancer trained in butoh, is known for his documentary style that observes the difference between his and others' bodies, compares and exchanges gestures, and structures the "archive of the body" from the observer's point of view. He has recently been commissioned curatorial projects too. In 2011, he received the jury prize at Yokohama Dance Collection EX and F/T (Festival/Tokyo) Award. In 2015, in addition to the first new work in 18 months, he involved himself in research in Korea for his future creation and a work by Toshiki Okada as a performer, and spent a lot of time preparing for his curatorial work for "Tatsumi Hijikata Project" at the Asian Arts Theatre, Gwangju, Korea.

Five Junior Fellows completed their two-year grant-receiving terms in 2015.

Yuichi Kinoshita expanded the scale of his activity in the two years. *Kurozuka* toured in Japan and Paris and was reviewed by a number of media including those in Paris. *Sanninkichisa* was nominated for the Yomiuri Theater Awards, which speaks for the attention that the company has been drawing in Japan. In addition to performances, he worked hard on projects for promotion of their idea of "contemporarization of classics" such as the publication of "Kinoshita Kabuki Library," lectures and post-performance talks. We look forward to more international activity of the company for disseminating their works that contemporarize Japanese classics to audiences abroad.

Takahiro Fujita's large-scale projects with public halls and international activities increased in the two years. His projects with public halls include a tour across Japan of *cocoon*, which was premiered in 2013 and highly acclaimed, and direction of plays by Hideki Noda and Shuji Terayama. He has been continuing his project in Italy, which is planned to be developed into a co-production. Now that he has become the most renowned playwright and director in the young generation, we look forward to his future activities that should influence not only the field of theater but also other cultural sectors.

Takuya Murakawa re-created and presented two of his 2014 works this year. The two years let him take his own time to work on projects. *Everett ghost lines* was invited to Korea for a creation in residence and presentation. Thinking his own works over, apparently he rediscovered or clarified the foundation of his creation and direction of his activity. He has been receiving good offers such as performances at Hebbel am Ufer, Berlin, an emerging theater maker program of Kunstenfestivaldesarts, Brussels, and the official program of Kyoto Experiment. We look forward to his future activities in Japan and abroad.

The members of KENTARO!!'s company were individually active during his two-year term. That contributed to the improvement of the company and their intense pieces. He has recently been working

on theater works too, and playwriting led him to the reconsideration of his choreography, which should influence his future dance works. International tours as well as event organization and management have been continuing. He aims to work in the form of a residence company of a venue, and has been thinking of a conceptual creation methodology both of which we look forward to.

Kaori Seki has presented a meticulously created new piece every year. Her works are characterized by subtle choreography and tense performances, but in the new work, the importance of individual dancers was more visible, which seemed to be speaking for her improvement. A number of critics reviewed the work, and it was also well-received by international professionals who came to Japan to attend TPAM, which has paved the way to her future activities. We hear that the work went through changes during the creation process, and it is expected to be even better in the future. The members of the company increased, and in the current situation of contemporary dance, where even the number of companies has been decreasing, we should keep paying attention to the development of her activity.

Senior Fellows

Junnosuke Tada, the artistic director of "Tokyo Deathlock," Maki Morishita, a choreographer, director and dancer, and Yuya Tsukahara, the leader of "contact Gonzo" that has been active in the fields of dance and visual arts, were newly selected as Senior Fellows, which is basically for artists younger than forty-five years old.

Junnosuke Tada became a Senior Fellow after his Junior Fellow term (2009–2010) and our International Projects Support Program for his "KARUMEGI Project". He has been the artistic director of KIRARI☆FUJIMI Cultural Centre of Fujimi City, and was appointed "Takamatsu City Art Director," who provides the city with guidance and advice regarding cultural and artistic projects, in 2015. His wide-range activities including establishment of civic theater performance and instructing at educational institutions has been continuing for ten years. He says that he thinks mainly of "what can be handed down there" in his regional projects. Concerning international activity, he is developing a relationship with Korea further and planning to work broadly also in East / Southeast Asia. New members joined Tokyo Deathlock this year, and the company's *Peace (at any cost?)* was inspired by *The Acharnians* by Aristophanes. It was presented in Kyoto, Kagawa, Aomori and Saitama. It can be said that these multifaceted activities stemmed from the accumulation of his efforts for ten years.

Maki Morishita, after presenting her first solo work *Debutant* in 2003, received the Yokohama Arts Foundation Award and the Outstanding Performance Award at Tokyo Competition #2. The success of her workshop and creations that invite a wide range of generations to the joy of dance led her to regional activities and collaborations with non-dance sec-

tors. This year she created a dance piece together with 100 citizens to a live orchestra performance of Beethoven's "Destiny" at Kani Public Arts Center aLa. She also continued research for *Fruit from Rust*, her collaborative work with the artist Tabaimo, which was premiered in 2013. It is planned to be presented as an updated version from a new point of view in 2016. She is going not only to choreograph but also to be choreographed, to collaborate with artists from different backgrounds, and to try non-dance expression as well.

Yuya Tsukahara became a Senior Fellow this year after his 2013-2014 term as a Junior Fellow. He was eligible for continuation of Junior Fellow in terms of his age at the time of application, but he decided to apply for Senior Fellow in consideration for when to shift to larger-scale activity in his future plans. In recent years, he has been expanding the forms of his works, presenting not only their trademark performances that look like fights but also videos and photography. He has also started to explore new distribution routes; the right to his choreographic work *Choreography Concept 001 for untrained amateurs / Study in weight and movement* was sold on condition that the number of reproductions is limited. Also, in 2014, he received an offer for a three-year project for a performance series <PLAY> from the Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art. He is going to accelerate crossing and fusion of the grounds of dance and fine art to open up something beyond "contemporary dance."

Shiro Maeda, a writer and director, Ikuyo Kuroda, a choreographer and dancer, and Kumotaro Mukai, a director and choreographer, completed their three-year grant-receiving terms in 2015.

We had supported Shiro Maeda through our program "Incentive Aid to Young Artists" and for his Japan-France co-production of *understandable?*, but he never applied for becoming a Junior Fellow, and eventually applied for becoming a Senior Fellow in 2012. His purpose was clear; he wanted to manage his company's activity in Japan on his own, which he thought was most sustainable, but their international activities needed financial support and that was the only support he wanted. Indeed, during the grant-receiving term, his company "Gotandadan" was involved in a lot of international tours and cooperative projects, and the grant was used to compensate for the financial shortage for these activities. It is not that the management of the company and their atelier has been financially perfect, but he did not use all the grant money in the final year and resolutely returned the rest back to us, knowing that there would have been no problem at all if he had used it for management. Establishing his own unique position, he was active throughout the three years in international exchange and also in the fields of literature and film.

Since her debut in 2002, Ikuyo Kuroda rapidly gained reputation as one of the most important choreographers in the contemporary dance world in Japan, and has been active nationally and internationally. In addition to creation of new pieces, train-

ing of the company members and maintenance of their repertoires have always been Kuroda's concerns since when we started to support her company BATIK through our Artistic Creativity Enhancement Program. Her incessant effort to create places for young artists to present their creations and to study dance, such as "Trial" and "Repertoire Series" at Morishita Studio, has formed the foundation of the current company's activity. Also, she has strong curiosity to explore the idea of "dance" aside from her own creation; she took part in research on folklore dance, seminars, and the workshop "Archiving Dance," which deepened her thought. While creating energetically, she had a hard time in her private life in the three years, but we expect that she will keep her energy that connects everything in the universe to her work.

Kumotaro Mukai left Dairakudakan, the butoh company led by Akaji Maro, after working there for 18 years and became an independent artist in 2012. After working solo for a while, he formed his own company "Deux Shrine" with *Futatsu no Taiyo* (Two Suns) in 2015. Our Senior Fellow support covered the three years from his independence through the establishment of the company. Mukai was already acknowledged as a member of Dairakudakan, but it must have been hard for him to work in a new environment as an individual artist, where he had to do everything on his own, without a company with an established management scheme. However, in terms of creation, his fundamental questions on "dance," "What is dance? What is a new expression in performing arts?" drove him into vigorous exploration and activities throughout the grant-receiving term. *Butoh? Presentation Show / A la maison de M. MUROVECI*, his solo performance presented in February 2016, the final year of the term, summarized what he had done since leaving Dairakudakan and indicated his future direction, which can be said to be his new starting point.

We had critics and scholars who have monitored the three years summarize these artists' activities in the period.

Details on the activities of each Fellow in 2015 are listed in the following pages.

2015年度より From 2015



カゲヤマ気象台
劇作家・演出家「sons wo」代表 [演劇／東京]
Kishodai Kageyama
playwright, director and artistic director
of sons wo: [theater/Tokyo]
<http://sonswoweb.fc2.com>
撮影：笠原玄也 Photo: Hiroya Kasahara

- 継続助成対象期間
2015年度から2016年度まで
- 2015年度の助成内容
金額：1,000,000円(公演、リサーチ、自己研修等に充当)
- 2015年度の主な活動
2015年10–11月：sons wo:『シティI』東京、静岡
(アサヒ・アートスクエア、万年橋パークビル hachikai)
2016年3月：sons wo:『水』劇作：カゲヤマ気象台／演出：蜂巣もも
東京(アトリエ春風舎)
- Grant-receiving term
From 2015 to 2016
- Details on support during fiscal year 2015
Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.)
- Major activities during fiscal year 2015
October–November 2015: *CITY I*, sons wo., in Tokyo and Shizuoka
(Asahi Art Square, Mannenbashi Park Building hachikai)
March 2016: *Water*, sons wo: (written by Kishodai Kageyama / directed by
Momo Hachisu), at Atelier Shunpusha in Tokyo



sons wo:『シティI』東京、2015年10月
CITY I, sons wo., in Tokyo, October 2015



神里雄大
劇作家・演出家「岡崎藝術座」代表
[演劇／東京]
Yudai Kamisato
playwright, director and artistic director
of Okazaki Art Theatre [theater/Tokyo]
<http://okazaki-art-theatre.com>

- 継続助成対象期間
2015年度から2016年度まで
- 2015年度の助成内容
金額：1,000,000円(公演、リサーチに充当)
スタジオ提供：61日間
- 2015年度の主な活動
2015年5月：岡崎藝術座「+51 アビアシオン、サンボルハ」ツアー
福岡、宮城(「第9回福岡演劇フェスティバル」、10BOX)
7月：岡崎藝術座「+51 アビアシオン、サンボルハ」ツアー
北海道(シアターZOO)
12月–2016年2月：岡崎藝術座「イスラ！イスラ！イスラ！」ツアー
熊本、京都、東京、神奈川(早川倉庫、京都芸術センター、
早稲田どらま館、STスポット)
- Grant-receiving term
From 2015 to 2016
- Details on support during fiscal year 2015
Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research)
Studio Rental: 61 days
- Major activities during fiscal year 2015
May 2015: +51 *Aviación*, *San Borja* Japan Tour,
Okazaki Art Theatre, in Fukuoka and Miyagi
(“9th Fukuoka Theater Festival”, 10BOX)
July: +51 *Aviación*, *San Borja* Japan Tour, Okazaki Art Theatre, at Theater
ZOO in Hokkaido
December–February 2016: *ISLA / ISLA / ISLA!* Japan Tour, Okazaki Art
Theatre, in Kumamoto, Kyoto, Tokyo, Kanagawa (Hayakawa Warehouse,
Kyoto Art Center, Waseda Drama-kan, ST Spot)



岡崎藝術座「イスラ！イスラ！イスラ！」神奈川、2016年2月
撮影：富貴塚悠太 *ISLA / ISLA / ISLA!*, Okazaki Art Theatre, in
Kanagawa, February 2016 Photo: Yuta Fukitsuka



柴幸男

劇作家・演出家「ままごと」代表
[演劇 / 東京・愛知]

Yukio Shiba

playwright, director and artistic director
of mamagoto [theater/Tokyo, Aichi]
<http://www.mamagoto.org/>

撮影: 源賀津己 Photo: Katsumi Minamoto

継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演に充当)

2015年度の主な活動

2015年5-6月: ままごと『わが星』東京(三鷹市芸術文化センター)

7月: ままごと『わが星』香川

(香川県立小豆島高等学校 体育館特設ステージ)

8月: KUNIO12『TATAMI』劇作 神奈川(KAAT神奈川芸術劇場)

9月: ままごと×パルテノン多摩『あたらしい憲法のはなし』東京
(「多摩1キロフェス 2015」)

12月: ままごと×象の鼻テラス『Theater ZOU-NO-HANA 2015』神奈川
(象の鼻テラス、象の鼻パーク、京浜フェリーボート、Charan Paulin)

2016年2月: ミエ・ユース演劇 ラボ 2016×ままごと まねごと

『わたしたちは、息をしている』三重(三重県文化会館)

Grant-receiving term

From 2015 to 2016

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances)

Major activities during fiscal year 2015

May-June 2015: *Our Planet* - Tokyo Performance-, mamagoto, at MITAKA CITY ARTS CENTER THEATER in Tokyo

July: *Our Planet* - Shodoshima Performance-, mamagoto, at Shodoshima High School gymnasium special stage in Kagawa

August: *TATAMI*, KUNIO12, playwright, in Kanagawa

September: *THE NEW CONSTITUTION*, mamagoto × Parthenon TAMA, in "TAMA 1km Fes 2015", Tokyo

December: *Theater ZOU-NO-HANA 2015*, mamagoto × ZOU-NO-HANA TERRACE, at ZOU-NO-HANA TERRACE and more in Kanagawa

February 2016: *We are breathing*, Mie Youth theater lab 2016 × mamagoto manegoto, at Mie Prefecture Culture Hall in Mie



ままごと『わが星』香川、2015年7月 撮影: 濱田英明

Our Planet - Shodoshima Performance-, mamagoto, in Kagawa, July 2015 Photo: Hideaki Hamada



杉原邦生

演出家・舞 台美術家「KUNIO」代表
[演劇 / 京都]

Kunio Sugihara

director, stage designer and artistic
director of KUNIO [theater/Kyoto]
<http://www.kunio.me/>

撮影: 堀川高志 Photo: Takashi Horikawa

継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演、法人化費用に充当)

スタジオ提供: 50日間

2015年度の主な活動

2015年5月: KUNIO番外公演『ともだちが来た』京都(元・立誠小学校)

6月: 木ノ下歌舞伎『三人吉三』演出・舞 台美術 東京(東京芸術劇場)

8月: KUNIO12『TATAMI』神奈川(KAAT神奈川芸術劇場)

10-11月: スーパー歌舞伎II『ワンピース』演出助手 東京(新橋演舞場)

11月: 東京芸術劇場・創作ワークショップ「池袋ウエストゲートパーク」

構成・演出 東京(東京芸術劇場)

2016年1月: 木ノ下歌舞伎『黒塚』演出・舞 台美術

パリ(パリ日本文化会館)

Grant-receiving term

From 2015 to 2016

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performance, etc.)

Studio Rental: 50 days

Major activities during fiscal year 2015

May 2015: *TOMODACHI GA KITA*, KUNIO extra, in Kyoto

June: *SANNINKICHISA*, KINOSHITA-KABUKI,

direction / stage design, in Tokyo

August: *TATAMI*, KUNIO12, in Kanagawa

October-November: *ONE PIECE*, SUPER KABUKI II,

assistant director, in Tokyo

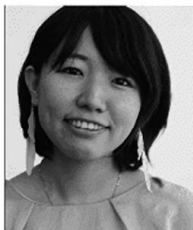
January 2016: *KUROZUKA*, KINOSHITA-KABUKI,

direction / stage design, in Paris



KUNIO12『TATAMI』神奈川、2015年8月 撮影: 清水俊洋

TATAMI, KUNIO12, in Kanagawa, August 2015.
Photo: Toshihiro Shimizu



西尾佳織

劇作家・演出家「鳥公園」代表 [演劇／東京]

Kaori Nishio
playwright, director and artistic director
of Tori Kouen (Bird Park) [theater/Tokyo]
<http://bird-park.info>

撮影: 引地信彦 Photo: Nobuhiko Hikiji

継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円 (公演、団体運営、リサーチ、自己研修に充当)
スタジオ提供: 21日間

2015年度の主な活動

2015年5月: 「例えば朝9時には誰がルーム51の角を曲がってくるかを知っていたとする」 劇作・共同演出
静岡 (「ふじのくににせかい演劇祭2015」主催プログラム)
8月: 鳥公園 #11「緑子の部屋」京都 (アトリエ劇研)
9-10月: 鳥公園「火星の人と暮らす夏」東京、福岡、愛知 (「多摩1キロフェス」, 「枝光まちなか芸術祭2015」、名古屋市青少年交流プラザ)
11-12月: 鳥公園 #11「緑子の部屋」東京 (こまばアゴラ劇場)
2016年3月: 小鳥公園 #3「ベルソナ」 (原作: 多和田葉子) 東京 (日本演出家協会「若手演出家コンクール2015」最優秀賞受賞)

Grant-receiving term

From 2015 to 2016

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, company management, research and study, etc.)

Studio Rental: 21 days

Major activities during fiscal year 2015

May 2015: *What if you know who shows up from the corner of room 51 at 9 in the morning*, playwright / co-direction in Shizuoka
August: *The Room of MIDORI KO*, Bird Park #11, at atelier GEKKEN in Kyoto
September-October: *One Summer with an old lady from Mars*, Bird Park, in Tokyo, Fukuoka, Aichi
November-December: *The Room of MIDORI KO*, Bird Park #11, at Komaba Agora Theater in Tokyo
March 2016: *The Persona*, Little Bird Park #3, in Tokyo



鳥公園 #11「緑子の部屋」東京、2015年11月 撮影: 塚田史子
The Room of MIDORI KO, Bird Park #11, in Kyoto, November 2015
Photo: Fumiko Tsukada



山本卓卓

劇作家・演出家「範宙遊泳」代表 [演劇／東京]

Suguru Yamamoto
playwright, director and artistic director
of HANCHU-YUEI [theater/Tokyo]
<http://hanchuyuei.com>

継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円 (公演、リサーチ、自己研修、機材に充当)
スタジオ提供: 10日間

2015年度の主な活動

2015年5月: ドキュメント「となり街の知らない踊り子」 劇作・演出・振付・映像 神奈川 (STスポット)
6月: 範宙遊泳 × Democrazy Theater「幼女X」日本-タイ共同制作版 劇作・演出・映像 バンコク (デモクレージシアタースタジオ)
9-10月: 範宙遊泳「幼女Xの人生で一番楽しい数時間」3都市ツアー 東京、北海道、愛知 (こまばアゴラ劇場、コンカリーニョ、愛知県芸術劇場)
12月: 範宙遊泳「われらの血がしょうたい」 神奈川 (「フェスティバルノトーキョー15」連携プログラム)
2016年1月: 範宙遊泳「われらの血がしょうたい」ケララ、ニューデリー (「ケララ国際演劇祭」、the National School of Drama)
2月: ドキュメント「となり街の知らない踊り子」 劇作・演出・映像 (「TPAM in Yokohama 2016」主催プログラム)
3月: Play Reading「幼女X」 劇作 ニューヨーク (ジャパン・ソサエティー)

Grant-receiving term

From 2015 to 2016

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.)
Studio Rental: 10 days

Major activities during fiscal year 2015

May 2015: *DOCU(NT)MENT "The Unknown Dancer in the Neighboring Town"*, playwright / direction / choreography / video, at ST Spot in Kanagawa
June: *Girl X* (Japan-Thailand Collaboration Ver.), Theater Collective HANCHU-YUEI × Democrazy Theatre, at Democrazy Theater Studio in Bangkok
September-October: *Most fun a few hours in the life of a Girl X*, Theater Collective HANCHU-YUEI, in Tokyo, Hokkaido, Aichi (Komaba Agora Theater, Concarino, Aichi Prefectural Art theater)
December: *Colours of Our Blood*, Theater Collective HANCHU-YUEI, in Kanagawa
January 2016: *Colours of Our Blood*, Theater Collective HANCHU-YUEI, in Kerala and New Delhi
February: *DOCU(NT)MENT "The Unknown Dancer in the Neighboring Town"*, playwright / direction / choreography / video, in "TPAM in Yokohama 2016", Kanagawa
March: Play Reading "*Girl X*", playwright, at Japan Society in New York



範宙遊泳「幼女Xの人生で一番楽しい数時間」東京、2015年9月 撮影: 加藤和也 (快快) *Most fun a few hours in the life of a Girl X*, Theater Collective HANCHU-YUEI, in Tokyo, September 2015 Photo: Kato Kazuya (FAIFAI)



川村美紀子

振付家・ダンサー [舞踊/東京]

Mikiko Kawamura
choreographer and dancer [dance/Tokyo]
<http://kawamuramikiko.com/>

撮影: 梶山かつみ Photo: Katsumi Kajiyama

— 継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

— 2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演、制作人件費等に充当)

スタジオ提供: 58日間

— 2015年度の主な活動

2015年8月: 『春の祭典』東京(『ダンスがみたい』)

8-9月: トヨタ コレオグラフィーアワード 2014 受賞者

金沢21世紀美術館 レジデンスプログラム [新作プレビュー公演&トーク] 『まぼろしの夜明け』金沢(金沢21世紀美術館)

10月: トヨタ コレオグラフィーアワード 2014

受賞者公演『まぼろしの夜明け』東京(シアタートラム)

11月: 『まぼろしの夜明け』高知(高知県立美術館)

11-12月: T.H.E Second Dance Company『Gear』振付
シンガポール(エスプラネード劇場)

2015年1-6月: 横浜ダンスコレクション EX2015

コンペティションI『若手振付家のための在日

フランス大使館賞』副賞としてフランスにてアーティスト・イン・レジデンス

— Grant-receiving term

From 2015 to 2016

— Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, management staff fee, etc.)

Studio Rental: 58 days

— Major activities during fiscal year 2015

August 2015: *The rite of spring*, in Tokyo

August-September: *MIDNIGHT DREAMERS*, residency program for TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2014 awardee, in Kanazawa

October: *MIDNIGHT DREAMERS*, TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2014 awardee performance, in Tokyo

November: *MIDNIGHT DREAMERS*, in Kochi

November-December: *Gear*, T.H.E Second Dance Company, choreograph, at Esplanade Theatre Studio in Singapore

January-June 2016: Artist in Residence in France as

"The French Embassy Prize for Young Choreographer" of Yokohama Dance Collection EX 2015



『まぼろしの夜明け』東京、2015年10月 撮影: bozzo

MIDNIGHT DREAMERS, in Tokyo, October 2015. Photo: bozzo



振子びじん

振付家・ダンサー [舞踊/東京]

Pijin Neji
choreographer and dancer [dance/Tokyo]
<http://pijinneji.blogspot.jp>

撮影: カンノケント Photo: Kento Kanno

— 継続助成対象期間

2015年度から2016年度まで

— 2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演、リサーチ、自己研修に充当)

スタジオ提供: 34日間

— 2015年度の主な活動

2015年6月: 『Urban Folk Entertainment』

神奈川(横浜赤レンガ倉庫)

10月: 『10 YEARS IN 1 MINUTE』コペンハーゲン(ダンスハラーン)

11月: 『野良2015』出演 福岡

12月: 『whenever wherever festival 2015』出演

東京(森下スタジオ)

『BONUS 連結クリエイション』出演 東京

2016年2月: 『<外>の千夜一夜VOL. 2』出演 神奈川

『サウンドパフォーマンスプラットフォーム』出演 愛知

— Grant-receiving term

From 2015 to 2016

— Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performance, research and study.)

Studio Rental: 34 days

— Major activities during fiscal year 2015

June 2015: *Urban Folk Entertainment*, at Yokohama Red Brick Theater in Kanagawa

October: *10 YEARS IN 1 MINUTE*, at Dansehallerne in Copenhagen



『Urban Folk Entertainment』神奈川、2015年6月

撮影: 加藤和也(快快) *Urban Folk Entertainment*, in Kanagawa, June 2015 Photo: Kato Kazuya (FAIFAI)



木ノ下裕一

監修・補綴「木ノ下歌舞伎」代表 [演劇/京都]

Yuichi Kinoshita

supervisor, reviser and artistic director of
Kinoshita Kabuki [theater/Kyoto]<http://kinoshita-kabuki.org/>

撮影: 松浦 歩 Photo: Ayumi Matsuura

継続助成対象期間

2014年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演に充当)

スタジオ提供: 42日間

2015年度の主な活動

2015年6月: 木ノ下歌舞伎「三人吉三」東京(東京芸術劇場)

びわ湖ホール歌舞伎講座 滋賀(びわ湖ホール)

9-10月: 木ノ下歌舞伎「心中天の網島」京都、東京(アトリエ劇研、こまばアゴラ劇場)

2015年1月: 木ノ下歌舞伎「黒塚」パリ(パリ日本文化会館)

Grant-receiving term

From 2014 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances)

Studio Rental: 42 days

Major activities during fiscal year 2015

June 2015: *Sanninkichisa*, Kinoshita Kabuki, in TokyoSeptember–October: *Shinju Ten no Amijima*, Kinoshita Kabuki, in Kyoto and TokyoJanuary 2016: *Kurozuka*, Kinoshita Kabuki, in Paris

木ノ下歌舞伎「心中天の網島」京都、2015年9月 撮影: 東直子
Shinju Ten no Amijima, Kinoshita Kabuki, in Kyoto, September
 2015 Photo: Naoko Azuma



藤田貴大

劇作家・演出家「マームとジプシー」代表

[演劇/東京、神奈川]

Takahiro Fujita

playwright, director and artistic director of
mum & gypsy [theater/Tokyo, Kanagawa]<http://www.mum-gypsy.com/>

撮影: 篠山紀信 Photo: Kishin Shinoyama

継続助成対象期間

2014年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(海外事業に充当)

2015年度の主な活動

2015年4月: マームとジプシー「ヒダリメノヒダ」神奈川(神奈川芸術劇場)

6-8月: マームとジプシー「cocoon」東京、新潟、愛知、沖縄、山口、神奈川
(東京芸術劇場、リューとびあ新潟市民芸術文化会館、穂の国とよはし芸術
劇場、ちやたんニライセンター、山口情報芸術センター、杜のホールはしもと)

9月: 「IL MIO TEMPO/My time」作・演出 トスカーナ(Teatro Era)

12月: 「書を捨てよ町へ出よう」(作: 寺山修二)上演台本・演出

東京(東京芸術劇場)

2016年2月: マームとジプシー「夜三作「夜、さよなら」「夜が明けないま

ま、朝!」「Kと真夜中のほとり」 埼玉(彩の国さいたま芸術劇場)

Grant-receiving term

From 2014 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for project in Italy)

Major activities during fiscal year 2015

April 2015: *Pleats of Left eye*, mum & gypsy, at Kanagawa Arts Theater in

Kanagawa

June–August: *cocoon*, mum & gypsy, in Tokyo, Niigata, Aichi, Okinawa, Yamaguchi,
Kanagawa (Tokyo Metropolitan Theater, RYUTOPIA, Toyohashi Arts Theater,

Chatan Nirai Center, Yamaguchi Center for Arts and Media, Hashimoto Hall)

September: *IL MIO TEMPO/My time*, playwright/direction, at Teatro Era in

Toscana

December: *Throw Away Your Books, Rally in the Streets* (written by Shuji
Terayama), playwright / direction, at Tokyo Metropolitan Theater in Tokyo

February 2016: "Night Three Works", mum & gypsy, at Sainokuni Saitama

Arts Theater in Saitama



『書を捨てよ町へ出よう』東京、2015年12月 撮影: 井上佐由紀
Throw Away Your Books, Rally in the Streets, in Tokyo, December
 2015. Photo: Sayuki Inoue



村川拓也

演出家 [演劇/京都]

Takuya Murakawa

director [theater/Kyoto]

<http://murakawatakuya.blogspot.jp/>

撮影: 相模友士郎 Photo: Yujiro Sagami

継続助成対象期間

2014年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演に充当)

2015年度の主な活動

2015年7月: 『エヴェレットゴーストラインズ』4バージョン連続上演

京都(京都芸術センター)

11月: 『エヴェレットゴーストラインズ 光州バージョン』

『Around The Silence』光州(韓国) (Asian Arts Theater)

2016年2-3月: 『終わり』神奈川、京都 (TPAM2016ショーケース)

『KYOTO EXPERIMENT 2016 オープンエントリー』

Grant-receiving term

From 2014 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances)

Major activities during fiscal year 2015

July 2015: *Everett ghost lines*, at Kyoto Art Center in Kyoto

November: *Everett ghost lines* Gwangju version "Around The Silence" at Asian Arts Theater in Gwangju, Korea

February-March 2016: *The End*, in Kanagawa and Kyoto ("TPAM2016" showcase, "KYOTO EXPERIMENT 2016" OPEN ENTRY)



『終わり』京都、2016年3月 撮影: 前谷開

The End, in Kyoto, March 2016. Photo: Kai Maetani



KENTARO!!

振付家・ダンサー「東京ELECTROCK STAIRS」

代表 [舞踊/東京]

KENTARO!!

choreographer, dancer and artistic

director of TOKYO ELECTROCK STAIRS

[dance/Tokyo]

<http://www.kentarock.com/> (KENTARO!!)

<http://www.tokyoelectrock.com/>

(東京ELECTROCK STAIRS)

撮影: 服部未来 Photo: Miki Hattori

継続助成対象期間

2014年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(海外公演に充当)

スタジオ提供: 5日間

2015年度の主な活動

2015年4月: 東京ELECTROCK STAIRS Vol.11

『島棚/浅い河床の例え話』東京(こまばアゴラ劇場)

7月: ELECTROCK STAIRS ツアー「島棚」モンペリエ

(「MOUVEMENTS SUR LA VILLE」)

10月: Europe meets Asia KENTARO!!

『Klex goes back to the woods』ハノイ

12月: 東京ELECTROCK STAIRS Vol.12「傑作は西に死す」東京、長野(吉祥寺シアター、茅野市民館)

Grant-receiving term

From 2014 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performance in France)

Studio Rental: 5 days

Major activities during fiscal year 2015

April 2015: *Island shelf / Asai kashow no tatoebanashi*, TOKYO ELECTROCK STAIRS, at Komaba Agora Theatre in Tokyo

July: *Island shelf*, TOKYO ELECTROCK STAIRS Montpellier tour,

in Festival MOUVEMENTS SUR LA VILLE, Montpellier

September: *Klex goes back to the woods*, KENTARO!! in Hanoi ("Europe meets Asia")

December: *Masterpiece dies to the west*, TOKYO ELECTROCK STAIRS, in Tokyo and Nagano (Kichijoji Theatre, Chino Cultural Complex)



東京ELECTROCK STAIRS「傑作は西に死す」東京、2015年12月 撮影: 大洞博純

Masterpiece dies to the west, TOKYO ELECTROCK STAIRS, in Tokyo, December 2015. Photo: Hiroyasu Daido



関かおり

振付家・ダンサー「関かおり PUNCTUMUN」
代表 [舞踊/東京]

Kaori Seki
choreographer, dancer and artistic
director of KAORI SEKI Co.PUNCTUMUN
[dance/Tokyo] <http://www.kaoriseki.info/>

撮影: 岩淵貞太 Photo: Teita Iwabuchi

継続助成対象期間

2014年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2015年度の助成内容

金額: 1,000,000円(公演、自己研修に充当)

スタジオ提供: 60日間

2015年度の主な活動

2015年6月: 関かおりオープンクラス開催 東京(森下スタジオ)

10月: 関かおり秋のオープンクラス開催 東京(森下スタジオ)

12月: 関かおり冬のオープンクラス開催 東京(両国Bear)

2016年2月: 関かおりPUNCTUMUN「をこ」東京(森下スタジオ)

〈外〉の千夜一夜vol.2 室伏鴻振付「墓場で踊られる熱狂的なダンス」出演 神奈川(横浜赤レンガ倉庫)

2-3月: 関かおり春のオープンクラス開催 東京(森下スタジオ)

Grant-receiving term

From 2014 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performance, research and study)

Studio Rental: 60 days

Major activities during fiscal year 2015

June 2015: Kaori Seki OPEN CLASS,
at Morishita Studio in Tokyo

October: Kaori Seki Autumn OPEN CLASS,
at Morishita Studio in Tokyo

December: Kaori Seki Winter OPEN CLASS,
at Ryogoku Bear in Tokyo

February 2016: *WO CO*, KAORI SEKI Co.PUNCTUMUN,
at Morishita Studio in Tokyo

February-March: Kaori Seki Spring OPEN CLASS,
at Morishita Studio in Tokyo



関かおりPUNCTUMUN『をこ』東京、2016年2月 撮影:GO
WO CO, KAORI SEKI Co.PUNCTUMUN, in Tokyo, February 2016.
Photo: GO

2015年度より From 2015



多田淳之介

劇作家・演出家「東京デスロック」代表
「富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ」芸術監督
[演劇／東京]

Junnosuke Tada
playwright, director and artistic director
of TOKYO DEATHLOCK / Fujimi Public
Theater KIRARI☆FUJIMI [theater/Tokyo]
<http://deathlock.spectors.net>

撮影：やじまერი Photo: Eri Yajima

— 継続助成対象期間

2015年度から2017年度まで

— 2015年度の助成内容

金額：2,500,000円（公演 自己研修等に充当）

スタジオ提供：3日間

— 2015年度の主な活動

8月：東京デスロック「Peace (at any cost?) (70 years past from 1945.8 ver.)」京都、香川（アトリエ劇研、四国学院大学ノーススタジオ）

9–12月：日韓共同製作「飢風奇譚」演出 安山（韓国）、ソウル、東京、埼玉（安山アートセンター、南山芸術センター、「フェスティバルノトーキョー15」、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ）

12月：本牧アートプロジェクト「GOVERNMENT」演出（共同演出 JKアニコチェ）神奈川（HONMOKU AREA-2）

2016年2月：「RE/PLAY Dance edit. (シンガポール ver.)」演出 シンガポール（72–13）

3月：東京デスロック「Peace (at any cost?) (5 years past from 2011.3 ver.)」青森、埼玉（渡辺源四郎商店しんまち本店二階稽古場、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ）

— Grant-receiving term

From 2015 to 2017

— Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.)

Studio Rental: 3 days

— Major activities during fiscal year 2015

August 2015: *Peace (at any cost?)* (70 years past from 1945.8 ver.), TOKYO DEATHLOCK, in Kyoto and Kagawa

March 2016: *Peace (at any cost?)* (5 years past from 2011.3 ver.), TOKYO DEATHLOCK, in Aomori and Saitama



東京デスロック「Peace (at any cost?) (5 years past from 2011.3 ver.)」埼玉、2016年3月 撮影：bozzo *Peace (at any cost?)* (5 years past from 2011.3 ver.), TOKYO DEATHLOCK, in Saitama, March 2016 photo: bozzo



森下真樹

振付家・演出家/ダンサー [舞踊／東京]

Maki Morishita
choreographer and dancer [dance/Tokyo]
http://maki-m.com/profile/index_en.html
撮影／Photo: 427FOTO

— 継続助成対象期間

2015年度から2017年度まで

— 2015年度の助成内容

金額：2,500,000円（創作、公演、自己研修等に充当）

スタジオ提供：62日間

— 2015年度の主な活動

2015年4月–：現代美術家 東芋×森下真樹 映像芝居「錆からでた実」1年を通してクリエーション

5月：日本フィルハーモニー×ダンス「タウンアンサンブル」振付・演出・出演 神奈川（グリーンホール相模大野）

9月：「パピコン」振付・演出 神奈川（横浜赤レンガ倉庫）

10月：こまつ座「11ぴきのネコ」振付 東京、大阪他

11月：「違言書ワークショップ」企画・発案 東京（森下スタジオ）

12月：振付家・ダンサー大植真太郎氏との作品リサーチ

東京（森下スタジオ）

2016年3月：「オーケストラで踊ろう！『運命』」振付・構成・演出

岐阜（可児市文化創造センター）

映像芝居「錆からでた実」レジデンス&ショーイング

兵庫（城崎国際アートセンター）

— Grant-receiving term

From 2015 to 2016

— Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥1,000,000 (used for creation, performances, self-study, etc.)

Studio Rental: 62 days

— Major activities during fiscal year 2015

September 2015: *Papi-comte*, in Kanagawa

March 2016: showing of *Sabi kara deta mi / Fruits borne out of rust*, in Hyogo



「パピコン」神奈川、2015年9月 撮影：塚田洋一 *Papi-comte*, in Kanagawa, September 2015 photo: Yoichi Tsukada



塚原悠也

演出家・パフォーマー「contact Gonzo」代表
[パフォーマンス/大阪]

Yuya Tsukahara

director, performer and artistic director of
contact Gonzo [performance/Osaka]
<http://contactgonzo.blogspot.com/>

継続助成対象期間

2015年度から2017年度まで

2015年度の助成内容

金額: 2,500,000円(公演、展示に充当)

2015年度の主な活動

2015年5月: contact Gonzo「ハリケーンサンダー」京都(「Dance Fanfare Kyoto 03」)

7-9月: 「おいたトイレナール」でのcontact Gonzo映像作品展示、パフォーマンス(テニスコート、植野隆司とのコラボレーション)

10月: contact Gonzo「suspicious movement」(コラボレーション作品) フランクフルト(モサントゥーン劇場)

10月-2016年1月: 早稲田大学演劇博物館「who dance? 振付のアクチュアリティ」展でのcontact Gonzo映像展示、パフォーマンス

2月: 塚原悠也ソロパフォーマンス「PLAY vol.2」香川(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)

2-3月: contact Gonzo「xapaxnannan」映像バージョンを展示 大阪(contact Gonzo事務所) 他近隣3箇所において展示を同時期に共同開催

3月: 足立智美 x contact Gonzo「てすらんばしり」京都(「京都国際舞台芸術祭2016 SPRING」公式プログラム)

Grant-receiving term

From 2015 to 2017

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥2,500,000 (used for performances, exhibition.)

Studio Rental: 62 days

Major activities during fiscal year 2014

May 2015: Performance of theater piece "Hurricane Thunder", contact Gonzo, in "Dance Fanfare Kyoto 03", Kyoto

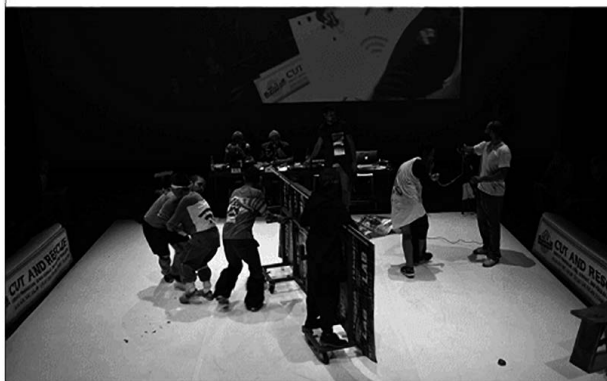
July-September: Exhibition and Performance, contact Gonzo in "Oita Toilenale", Oita

October: Collaboration work "Suspicious Movement", contact Gonzo, at Mosontrum in Frankfurt

October 2015-January 2016: Performance and Video Installation, contact Gonzo, in "Who Dance? Actuality of Choreography" at The Tsubouchi Memorial Theatre Museum of Waseda University in Tokyo

February: Solo Performance "PLAY vol.2" at Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art in Kagawa

March: *Teslan Run*, Tomomi Adachi x contact Gonzo, in KYOTO EXPERIMENT 2016 SPRING, Kyoto



contact Gonzo「suspicious movement」フランクフルト、2015年10月
撮影: Anais Emilia Rödel *suspicious movement*, contact Gonzo, in Frankfurt, October 2015 photo: Anais Emilia Rödel



危口統之

演出家「悪魔のしるし」代表
[演劇/東京、神奈川]

Noriyuki Kiguchi

director and artistic director of AKUMA
NO SHIRUSHI [theater/Tokyo, Kanagawa]
<http://www.akumanoshirushi.com/>

継続助成対象期間

2014年度から2016年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2015年度の助成内容

金額: 2,500,000円(公演、自己研修に充当)

2015年度の主な活動

2015年5月: 「搬入プロジェクトドキュメントブック」出版

7月: 悪魔のしるし「搬入プロジェクト #17 飛渡計画」新潟(「越後妻有トリエンナーレ 大地の芸術祭」)

8月: 悪魔のしるし「搬入プロジェクト #18 クアラルンプール」

9月: 悪魔のしるし「搬入プロジェクト #19 ロッテルダム」

(「フェスティバル・デ・クーゼ」)

10月: 「奇跡」演出・装置設計 東京(「サウンド・ライブ・トーキョー」)

2016年1月: いわき総合高校アトリエ公演『はだかのオオカミ』劇作・演出 福島(いわき総合高校)

3月: 悪魔のしるし「搬入プロジェクト #20 京都・岡崎計画」

京都(ロームシアター京都オープニング事業)

Grant-receiving term

From 2014 to 2016

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
2,500,000	2,500,000	5,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥2,500,000 (used for performances, research and study)

Major activities during fiscal year 2015

May 2015: Publication of "CARRY-IN-PROJECT DOCUMENT 2008-2013"

July: *Carry-In-Project #17 Tobitani*, AKUMA NO SHIRUSHI, in "Echigo-Tsumari Art Triennale", Niigata

August: *Carry-In-Project #18 Kuala Lumpur*, AKUMA NO SHIRUSHI

September: *Carry-In-Project #19 Rotterdam*, AKUMA NO SHIRUSHI

October: *Miracle*, Direction / Stage Design in "SOUND LIVE TOKYO", Tokyo

January 2016: *A Naked Wolf*, playwright / Direction at Iwaki Sogo High School in Fukushima

March: *Carry-In-Project #20 Kyoto Okazaki*, AKUMA NO SHIRUSHI, as Rohm Theatre Kyoto Opening Program in Kyoto



『奇跡』東京、2015年10月 撮影: 前澤禎登 *Miracle*, in Tokyo, October 2015 Photo: Hideto Maesawa



筒井潤

劇作家・演出家「dracom」代表 [演劇/大阪]

Jun Tsutsui

playwright, director and artistic director
of dracom [theater/Osaka]

<http://dracom-pag.org/>

継続助成対象期間

2014年度から2016年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2015年度の助成内容

金額:2,500,000円(事業、管理・経常費、自己研修等に充当)

2015年度の主な活動

2015年6月:高槻シアター劇団そよ風ペダル『モロモロウロウ』劇作・演出
仙台(「全国シアター演劇大会 in 仙台」)

8月:dracom Gala「たんじょうかい #3『愛の棲家』(作:大竹野正典)
『アイデアル』(作:樋口ミユ)『tango@はじめて』(作:繁澤邦明・作)」大
阪(ウイングフィールド)

12月-2016年1月:dracom 祭典「ソコナイ図」大阪(アトスペース
ジューソー/#13)

2月:TPAM コプロダクション「アジア・アーティスト・インタビュー」
インタビュアー 神奈川(「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016」)

3月:ZOMBIE-4months creation「Action and Presentation」

演出・出演・構成・テキスト 大阪(芸術創造館)

毎月1回、関西で上演される舞台作品をテーマとした茶話会「ざろんさろ
ん」を実施。

Grant-receiving term

From 2014 to 2016

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
2,500,000	2,500,000	5,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥2,500,000 (used for projects, arts management and research and
study)

Major activities during fiscal year 2015

August 2015: dracom Gala "Tanjoukai" (Short Drama Presentation) #3, at
Wingfield in Osaka

December 2015-January 2016: dracom SAITEN (Festival) *Sokonai-zu*, at
Art space / #13 in Osaka

organized Monthly Salon Talk Event "Zaron Saron"



dracom 祭典「ソコナイ図」大阪 2015年12月

dracom SAITEN (Festival) *Sokonai-zu*, in Osaka, December 2015



梅田宏明

振付家・ダンサー・ビジュアルアーティスト「S20」

代表 [舞踊/東京]

Hiroaki Umeda

choreographer, dancer, visual artist and
artistic director of S20 [dance/Tokyo]

<http://hiroakiumed.com/>

撮影/ Photo: Shin Yamagata

継続助成対象期間

2014年度から2016年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2015年度の助成内容

金額:2,500,000円(事業、制作人件費に充当)

スタジオ提供:4日間

2015年度の主な活動

2015年4月:『split flow』『Intensional Particle』クレティユ(フランス)
(「Festival EXIT」)

『while going to a condition』『Accumulated Layout』
メキシコシティ(Nacional de las Artes)

5月:『split flow』『Holistic Strata』モントリオール
(MUTEK Montreal)

9月:Somatic Field Project「5. waves」神奈川
(「セプテンバーセッションズ」)

10月:『while going to a condition』ソウル(「SIDance」)

2016年1-3月:『Movement Research - Phase』愛媛、青森、宮城、
兵庫、東京(「踊りに行くぜ!!!!セカンドvo.6」)

Grant-receiving term

From 2014 to 2016

Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥2,500,000 (used for projects, company management fee)

Studio Rental: 4 days

Major activities during fiscal year 2015

April 2015: *split flow* / *Intensional Particle*, at "Festival EXIT" in Creteil,
France

while going to a condition / *Accumulated Layout*, at Nacional de las Artes in
Mexico City

May: *split flow* / *Holistic Strata*, at MUTEK Montreal in Montreal

September: *5. waves*, Somatic Field Project, at "SEPTEMBER SESSIONS" in
Kanagawa

October: *while going to a condition*, at "SIDance" in Seoul

January-March 2016: *Movement Research - Phase*, in Ehime, Aomori,
Miyagi, Hyogo, Tokyo



Somatic Field Project「5. waves」神奈川、2015年9月 撮影:塚田洋一
5. waves, Somatic Field Project, in Kanagawa, September 2015

Photo: Yoichi TSUKADA



前田司郎

劇作家・演出家・俳優・映画監督「五反田団」
代表) [演劇/東京]

Shiro Maeda

playwright, director, actor, movie director
and artistic director of Gotandadan
[theater/Tokyo]
<http://www.uranus.dti.ne.jp/~gotannda/>

継続助成対象期間

2013年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2013年度	2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	2,833,005	7,833,005

2015年度の助成内容

金額:2,833,005円(国際交流事業に充当)

ゲストルーム提供:14日間

2015年度の主な活動

2015年4月:韓国のカンパニー「偉大なる冒険」による「偉大なる生活の冒険」招聘 東京(アトリエヘリコプター)

6月:シティーボーイズファイナルpart.1「燃えるゴミ」劇作・演出 東京(東京グローブ座)

11月:五反田団「pion」東京(アトリエヘリコプター)

2016年1月:「新年工場見学会2016」東京(アトリエヘリコプター)

3月:Fefa Noia(演出家)とのKubik Fabrikでの2016年の公演準備のためのワークショップ マドリード(Kubik Fabrik - LazonaKubik)

Grant-receiving term

From 2015 to 2017

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	2015	Total
2,500,000	2,500,000	2,833,005	7,833,005

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥2,833,005 (used for international projects)

Guestroom Rental: 14 days

Major activities during fiscal year 2015

April 2015: *Great Life Adventure*, performed by "Great Adventure" from Seoul, at Atelier Helicopter in Tokyo

June: *Moeru gomi*, City Boys's last performance part 1, playwright / direction, in Tokyo

November: *pion*, GOTANNDADAN, at Atelier Helicopter in Tokyo

March 2016: "SuteruTabi" workshop with Fefa Noia at Kubik Fabrik in Madrid

前田司郎の2013~2015年度の活動について

柴田隆子(舞台芸術研究・批評)

戯曲や小説などの執筆、新作や再演作品の演出、欧州やアジアでの海外公演やワークショップと前田司郎の2013~2015年度の活動は多岐にわたる。エッセイ集や文庫本の出版、自ら監督する映画『ジ・エクストリーム、スキヤキ』の公開や『ふきげんな過去』の撮影、NHKドラマ『徒歩7分』の脚本で向田邦子賞受賞など、舞台芸術に限らず様々な分野での活躍がみられた3年間でもある。

前田の描く世界は日常的な現実を意識を置きながらも、とっぴなファンタジーとの間を軽々と行き来する。作品世界を支えるのは、独特の言語感覚による言葉である。舞台では俳優の発する言葉が想像力を喚起し、簡素な舞台にリアリティを伴う光景を浮かび上がらせる。前田の言葉は、俳優の身体のリズムと相まって存在感を増す。言葉によって描かれた世界は言語を越えていく。このことは海外で「すてるたび」「偉大なる生活の冒険」「迷子になるわ」が受け入れられたことから明らかであろう。

拠点となるアトリエヘリコプターでの公演は、そうした言葉を生み出すための土壌である。シリーズとなる「五反田怪団」は実話怪談を演劇仕立てにしたエチュード的イベントだが、五反田団所属俳優による『五反田の夜』(2011)に続く『五反田の朝焼け』(2013)や最新作「pion(パイオン)」(2015)にも同様の要素が見られる。俳優とのやり取りは前田独特の言語感覚を他者と共有可能にするための試行錯誤であり、公演に居合わせた観客もまたその言語実験に参加することになる。対話に語りの要素を加え、人形や着ぐるみを用い、男女や人間と動物の境界を揺さぶりながらもなりきることなく演じ分ける「pion」は、身近な問題意識を寓意化して示すより実験的な作品である。日常に根ざす想像力によって現実にある問題意識を照射するというこれまでの作風を洗練させることなく精鋭化させており、今後の展開に大いに期待したい。



韓国のカンパニー「偉大なる冒険」による「偉大なる生活の冒険」招聘
東京、2015年4月 *Great Life Adventure*, Performed by "Great Adventure" from Seoul, in Tokyo, April 2015



五反田団『すてるたび』シンガポール、2014年1月
Suteru Tabi, GOTANNDADAN, in Singapore, January 2014

On Shiro Maeda's Activities Between 2013 to 2015 By Takako Shibata, Performing Arts Scholar and Critic

Shiro Maeda's activities during the fiscal years of 2013 to 2015 ranged widely from writing plays and novels, directing new and revival plays, to touring and holding workshops in the U.S., Europe, and Asia. It was also a period of three years in which Maeda worked actively in fields outside of performing arts, such as publishing a collection of his essays and paperbacks, releasing the film *The Extreme Sukiyaki* that he directed by himself, shooting a new film titled *Kako: My Sullen Past*, and writing the screenplay for the NHK TV drama *7 minutes walk from home*, which won the Kuniko Mukoda Award.

The world portrayed by Maeda is placed within an everyday reality, but swings easily to and fro wild fantasies. Words that have a unique sense of language support the world of his works. During a performance, the words spoken by actors arouse the imagination of the audience and enable scenes with reality emerge on a simple minimalist stage. The presences of Maeda's words become stronger when they are combined with the physical rhythms of the actors. A world portrayed by language transcends languages. This is probably clear from how his works such *Suteru Tabi*, *Great Life Adventure*, and *Getting Lost* have been received well abroad.

The performances at Atelier Helicopter, which is Maeda's working base in Tokyo, is the topsoil that creates those words. One may find similar elements in the sketch event series performed by the actors of Gotandadan featuring real-life horror tales known as *Gotanda Horror Stories*, which include titles such as *A Night in Gotanda* (2011), followed by *The Sunrise in Gotanda* (2013), and the recent work *pion* (2015). The exchange between the actors is a trial and error process aimed to share Maeda's unique sense of language with others, and the audience members who happen to be at the performances are also participants in that linguistic experiment. *pion* is an experimental piece that turns familiar problems into fables by adding elements of narration to dialogues, using dolls and stuffed animal costumes, and shaking up the borders of gender and species in a calm, casual manner. Maeda keeps on improving - while avoiding sophistication - his style that exposes ac-

tual problems through imagination rooted in everyday life, which makes it worthwhile to look forward to his future work and activities.



五反田団「迷子になるわ」パリ、2014年11月 撮影：Jean Couturier
Getting Lost, GOTANNADAN, in Paris, November 2014 Photo:
Jean Couturier



黒田育世

振付家・ダンサー 「BATIK」代表 [舞踊/東京]

Ikuyo Kuroda
choreographer, dancer and artistic
director of BATIK [dance/Tokyo]
<http://batik.jp/>

撮影:三浦大輔 Photo: Daisuke Miura

継続助成対象期間

2013年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2013年度	2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

2015年度の助成内容

金額:3,000,000円(公演、カンパニー運営に充当)

スタジオ提供:146日間

2015年度の助成内容

2015年5月:「バティックレパートリーズ」[SIDE B]「アウラ」

『Six Marimbas』東京(森下スタジオ)

7月:黒田育世デュオ「波と暮らして」東京(両国BEAR)

8月:『落ち合っている』シンガポール(「シンガポール国際芸術祭2015

「ダンス・マラソン オープン・ウィズ・ア・バンクスピリット!」)

10月:「バティックトライアルvol.15」東京(森下スタジオ)

12月:「バティックレパートリーズ」[あつまるよ]『春の祭典』

『Six Marimbas & New York』東京(森下スタジオ)

Grant-receiving term

From 2013 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2013	2014	2015	Total
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥3,000,000 (used for performances, company management fee)

Studio Rental: 146 days

Major activities during fiscal year 2015

May 2015: BATIK Repertories: *SIDE B*, *Aura*, *Six Marimbas*, at Morishita Studio in Tokyo

July: *MY LIFE WITH THE WAVE*, Ikuyo Kuroda duo, in Tokyo

August: *Meeting-Melting*, in "Singapore International Festival of Arts"

October: "BATIK trial vol.15", at Morishita Studio in Tokyo

December: BATIK Repertories: *to gather*, *The rite of spring*, *Six Marimbas & New York*, at Morishita Studio in Tokyo

黒田育世の2013-2015年度の活動について

梅山いつき(近畿大学講師)

黒田育世の3年間の活動には、身体を注意深く観察しようとする内側へ向かうベクトルと、その結果生み出されたものとしての振り付けを第三者へ手渡す、外側へ向かうベクトルという二極が同時に共存していた。初年度経験した妊娠と出産は、自身のからだの扱い方を否が応でも変えさせたに違いない。だが、この変化は消極的なものではなく、非常に抑制的でありつつ、身体の可能性を拡張していく発展的なものとして舞台に結晶していった。「古川日出男の朗読空間

東へ北へ2013 —アサヒ・アートスクエアより」や、飴屋法水との共作「散歩をしよう」(共に2013年)などでの黒田からは空容し続ける身体を注意深く観察することから丁寧にダンスをつくりあげる誠実さを感じた。これまで黒田のダンスからは時に饒舌な印象を受けることもあったが、それとは異なるささやかさが繊細な動作を生み出していったように思う。

このような自身を見つめなおす作業と並行して行われていたのが、レパートリーワークショップ等の「再演」である。たとえば、「黒田育世のレパートリーを踊る試み」[SHOKU] (2014年)は、BATIKではなくワークショップに参加したダンサーによる舞台だ。黒田は「踊りたい」という欲求があれば誰でも踊れると述べており、「SHOKU」ではワークショップ参加者からみごとに「踊りたい」という欲求を引き出していた。ダンサーたちの欲望は、「SHOKU」という作品が内包する「欲望」というモチーフともうまく重なっており、そういう意味でも、ワークショップ参加者によって再演するという方法は成功していたと言える。このように、単なる名作の再演とは異なり、ダンサーを触発するための起爆剤となるべく、仕掛けとしての再演の在り方がこの3年間模索されたのではないだろうか。

最終年にはこうした内と外の取り組みが結実し、「黒田育世デュオ「波と暮らして」」(2015年)のような、微細な肉体的変化を振り付けに変え、デュオというかたちで相手のダンサーと分かち合う舞台が生まれた。この3年間の成果をもとに、黒田個人の活動だけでなく、BATIKという集団を発展させ、レパートリーワークショップのような取り組みを今後も継続することで、作品を確実にカンパニーにとつての財産にしていってほしい。



黒田育世デュオ『波と暮らして』東京、2015年7月 撮影:bozzo
MY LIFE WITH THE WAVE, Ikuyo Kuroda Duo, in Tokyo, July 2015 Photo: bozzo



「散歩をしよう」東京、2013年8月 撮影:前澤秀登
Let's Go Out for a Walk, in Tokyo, August 2015
Photo: Hideto Maezawa

On Ikuyo Kuroda's Activities Between 2013 to 2015 By Itsuki Umeyama, Lecturer, Kindai University

Two poles existed together simultaneously within the three years of Ikuyo Kuroda's activities: one pulled an inward-pointing vector that tried to observe the physical body carefully; the other pulled an outward-pointing vector whose aim was to hand over choreography that was created as the result of the first vector to a third party. The experiences of pregnancy and birth during her first year as a Senior Fellow must have changed her body whether she liked it or not. Although she kept it under extremely tight control, it was not a passive change but rather a developmental force that expanded the excursion of the physical body, which was eventually crystalized on stage. Two works that were produced in 2013, *Hideo Furukawa's Reading Space - To the East, To the North 2013 - From Asahi Art Square* and the collaboration piece with Norimizu Ameya titled *Let's Go Out for a Walk*, showed Kuroda's sincerity towards the act of creating dance as tenderly as she could from the way she closely observed the ever-changing physical body. In the past, there were times when Kuroda's dance gave the impression of being talkative, but it seems she now creates movements that are rather humble and delicate.

Along with such activities that were closely related to observing herself, another line of work that took place was the "revival" of repertory workshops. For example, in the case of *"SHOKU - An Attempt to Dance the Repertoires of Ikuyo Kuroda"* (2014), it wasn't the dancers from BATIK who were on stage, but those who participated in her workshops. Kuroda says anybody who has the "desire to dance" can dance, and in *SHOKU* she was able to bring out this "desire to dance" perfectly from each of the workshop participants. This desire of the dancers fits well with the subject contained within in *SHOKU*, which is in fact about desire itself, so one could say that the method of doing a revival of this work with the workshop participants was a success. The past three years were probably also a period during which Kuroda explored the issue of how revivals may become an effective mechanism - rather than just simply being a format of staging masterpieces - that could be used as an initiator to stimulate dancers.

These efforts brought fruit in her final year as a Saison Fellow, such as in the form of her work titled *MY LIFE WITH THE WAVE* (2015), in which the subtle changes in her body

were converted to elements of choreography, which were eventually shared with another dancer as a duo piece. By continuing efforts such as the repertory workshops, I hope that Kuroda will develop not only herself as an individual artist, but also BATIK as a group upon the outcome of these three years, and that their future work will surely become assets of the company.



「黒田青世のレパートリーを踊る試み『SHOKU』」神奈川、2014年6月
撮影: bozzo "SHOKU - An Attempt to Dance the Repertoires of Ikuyo Kuroda", in Kanagawa, June 2014 Photo: bozzo



向雲太郎

振付家・舞踏家「デュ社」代表 [舞踊/東京]

Kumotaro Mukai
choreographer, Butoh dancer and artistic
director of Deux shrine [dance/Tokyo]
<http://www.soulplaying.info/>

撮影: 高木伸俊 Photo: Nobutoshi Takagi

継続助成対象期間

2013年度から2015年度まで

2015年度までの助成金額(単位:円)

2013年度	2014年度	2015年度	合計
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

2015年度の助成内容

金額: 3,000,000円(事業・管理・経常費、自己研修に充当)

スタジオ提供: 45日間

ゲストルーム提供: 6日間

2015年度の助成内容

2015年4月: 画家鉄秀個展にてライブパフォーマンス

東京(「六本木アートナイト」)

8月: デュ社『春の祭典』東京(「ダンスが見たい」)

10月: ソロ公演「Butoh in progress」神奈川(BankART studio NYK)

10-12月: 石神井特別支援学校ワークショップ、発表会

12月: 「舞踏?ワークショップ」東京(両国 Bear)

2016年2月: ソロ公演「舞踏?プレゼンテーション・ショー」神奈川

(「TPAM in Yokohama 2016」)

3-4月: 「第1回ラテンアメリカ国際舞踏フェスティバル」参加 メキシコ

Grant-receiving term

From 2013 to 2015

Amount of continuous grants (in yen)

2013	2014	2015	Total
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

Details on support during fiscal year 2015

Grant: ¥3,000,000 (used for projects,

arts management fee and research and study)

Studio Rental: 45 days

Guestroom Rental: 6 days

Major activities during fiscal year 2015

April 2015: Live performance at Tessyu exhibition in
"Roppongi Art Night", Tokyo

August: *The rite of spring*, Deux Shrine, at D-soko in Tokyo

October: Solo performance "*Butoh? In progress*",

at BankART studio NYK in Kanagawa

October-December: Workshop and performance at Shakujii special-needs
school in Tokyo

December: "*Butoh? Workshop*" at Ryogoku Bear in Tokyo

February 2016: Solo Performance "*Butoh? Presentation show*" in "TPAM in
Yokohama 2016", Kanagawa

March-April: performance in "1st Festival International de Danza Butoh en
America Latina", Mexico City

向雲太郎の2013-2015年度の活動について

前田愛実(演劇ライター)

18年間、大駒駝艦で活躍してきた向にとって、ちょうど助成を得た退団後からの3年は、舞踏とどう向き合うか追求し続けた年月だったのではないだろうか。他ジャンルの芸術家や様々なバックグラウンドの踊り手と協働しながら、向は自分のダンスのあり方、そして現代の舞踏を模索していた。しかしそれは、こと舞踏にあってはとりわけ大きなテーマのように思える。歴史の大きな流れの中、日本という国の風土に出現した舞踏の現在を問うことは、日本の現在を問うことに通じるからだ。向が立ち上げたデュ社の旗揚げ公演『ふたつの太陽』は原爆をめぐる作品だが、戦後70周年を目前にした2014年に原爆を語ることは、前衛を身上としながら半ば伝統化しつつある舞踏の現状と相まって難しい。その大きな覚悟に頭が下がる思いだった。

向は、トークやプログラムに、自分は舞踏という狭い世界しか知らない、と繰り返し述べていた。裏を返せば舞踏は極めてたけだが、テクニクは、作品作りの基礎でありながら、同時に新しいダンスを追求し個性を活かそうとする者の壁となりうる。2013年『舞踏?』で、向は、白塗りの過程を見せ、舞踏家養成ギブスなるもので舞踏を茶化し、土方の踊りを完全コピーするという禁じ手で、舞踏の神秘を解体して見せた。『禁色』を思わせる生丸髯を最終的にはオープンで焼いて食べてしまう展開は、薄気味悪いが馬鹿々々しく愛らしく、向らしさに溢れていた。

そして2016年には、ダンスアーカイヴ構想主催の「舞踏? プレゼンテーション・ショー/A la maison de M.MUROVECI」で、室伏鴻の名作『quick silver』をコピーする。銀塗りを客前で行い、手の内をさらしながら室伏と同化していく向。しかし興味深かったのは、向が再現しつけない室伏の踊りに、向のふがないような体の魅力があらわれ、『quick silver』の振付けに新たな側面が見えたことだ。そしてさらには、向の身体のむこうに、室伏の身体の記憶も蘇がり感動を覚えた。

最後に向は、振付けのコピーはご法度だが、舞踏はもっと真似るべきだと語っていた。確かに安直なコピーはまずい、しかしこのコピーは新鮮だ。今後この手法がどのようなクリエイティブな展開をとげるのか、楽しい可能性を感じる。舞踏のコピーは彼のライフワークだという、向らしいコピーにこれからも期待する。



デュ社「春の祭典」東京、2015年8月 撮影: bozzo

The rite of spring, Deux shrine, in Tokyo, August 2015

Photo: bozzo

On Kumotaro Mukai's Activities Between 2013 to 2015 By Manami Maeda, Theater Review Writer

For Mukai, who had played an active part in Dairakudakan for eighteen years, the first three years after he left the butoh company, which also coincided with his grant receiving years, must have been a period that he kept on asking how he should face butoh. Mukai explored how his own dance must be and even how contemporary butoh ought to be while working with artists from other fields and dancers with various backgrounds. That seems to be a grand theme, especially in the case of butoh; when you question the present state of butoh, you are in fact questioning the present state of Japan since butoh emerged from the climate of this country and the vast flow of its history. *Futatsu no Taiyo* (Two Suns), which was the first work that was performed by his newly founded company Deux Shrine, was about the atomic bombs. To speak about the atomic bombs in 2014 - the year just before the seventieth anniversary of the end of World War II - must have been difficult for him as it was in conjunction with the present situation of butoh, a style of dance that identifies itself as being avant-garde though while actually half becoming a traditional form now. I saluted him in admiration for his strong determination in tackling this theme.

In talk sessions or in pamphlets given at his performances, Mukai repeatedly mentions that he only knows the narrow world of butoh. To put it the other way around, it means Mukai fully mastered butoh. While technique may be the foundation of creating work, it may also become an obstacle for those wishing to pursue a new kind of dance and trying to make the best of his or hers individuality. In his piece titled *Butoh?*, which was shown in 2013, Mukai poked fun at butoh by revealing the process of painting himself in white in front of an audience and then wearing a fictional training equipment for butoh dancers, and then dismantled the mysticism of butoh by doing the prohibited act of performing a complete cover version of Tatsumi Hijikata's dance. The scenes where Mukai cooked a whole raw chicken, which was reminiscent of Hijikata's *Forbidden Colors*, in a microwave oven and ate it, were eerie yet silly and even cute, and it was something that only Mukai could do.

And in 2016, Mukai copied the late Ko Murobushi's masterpiece *quick silver* for the *Butoh? Presentation show / A la maison de M. MUROVECI*, which was presented by Dance

Archive Network. Mukai laid out his cards by painting his body in silver and assimilated himself to Murobushi. What was interesting was that a certain kind of attractiveness emerged from Mukai's somewhat ashamed-looking body when he could not fully reproduce Murobushi's dance, and thus a new dimension in the choreography of *quick silver* became visible. Furthermore, it was moving to see the memory of Murobushi's body being resurrected through Mukai's body.

At the end, Mukai said that although it was a taboo to copy someone else's choreography, butoh ought to be emulated more. Indeed, doing a cheap copy of something is a bad idea. Mukai's copying was, however, very fresh. When I think how this method will develop creatively, I sense a happy potential in it. Copying butoh, Mukai says, is his life-work, and I look forward to seeing copies that only Mukai can do.



デュ社「ふたつの太陽」東京、2014年12月 撮影:bozzo
Futatsu-no-taiyo, Deux shrine, in Tokyo, December 2014 Photo:
bozzo



『舞踏?』森下スタジオ、2013年12月 撮影:bozzo
Butoh?, at Morishita Studio, December 2013 Photo: bozzo

Ⅱ パートナースhip・プログラム

Partnership Programs

1 現代演劇・舞踊助成

—創造環境整備

Contemporary Theater and Dance —Creative Environment Improvement Program

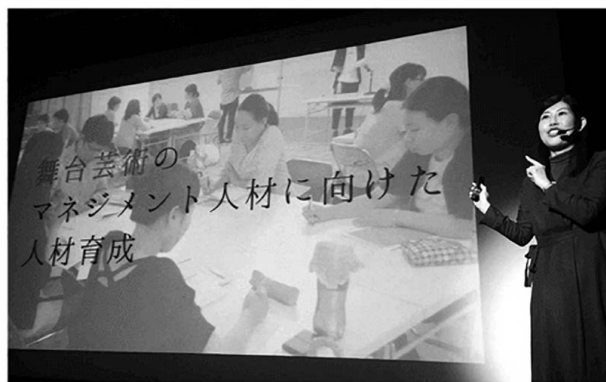
創造環境整備プログラムでは、2015年度は11件の事業に対して助成を行った。

本年度は、現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その創造的解決を目指した事業に対し、企画経費の一部を助成し、必要に応じてスタジオ、ゲストルームを提供した。またワークショップに対してはスタジオ、ゲストルームを提供した。

2015年度は、新たな組織、事業の立ち上げ4件に対して助成を行った。アジア女性舞台芸術会議実行委員会は「アジア女性舞台芸術会議に向けてシンポジウム」を越後妻有アートトリエンナーレで開催。1992年に故・如月小春が始動した「アジア女性演劇会議」を再生し、アジアの女性による舞台表現の歴史と現在、今後の展望と課題、再生の意義について話し合っているというもの。秋には森下スタジオで報告会を実施した。会議に先だって合宿形式によるワークショップが開催され、海外からのゲストとの交流が深まったようで、2016年度の継続プロジェクトにつながった。報告会には実演家、批評家等が多く参加しており、関心の高さが伺われた。草の根レベルで始まった交流が発展、拡大していくことを期待する。Explatは制作者のための人材育成と労働環境整備のための中間支援組織。制作者が継続的・発展的に舞台芸術界で働く環境を整備するための、専門性を持った組織として、就業支援の情報収集と提供、調査研究・提言等を行う。2015年度は、見やすく情報の充実したウェブサイトを開設し、舞台芸術界の様々な中間支援組織と連携して、舞台芸術関連団体のインターンシップ説明会、若手制作者向け講座などを実施した他、ソーシャル・スタートアップの支援事業への参加を通じて他業界との交流も図った。また、芸術公社による「Scene/Asia —アジアの観客空間を作る」では、舞台芸術作品が社会にて、より有効に機能するには批評の活性化が不可欠と捉え、ウェブサイトにて4カ国語(日・中・韓・英)のプラットフォームを作る。2016年2月の東京のシンポジウムでは、今年



アジア女性舞台芸術会議実行委員会「アジア女性舞台芸術会議に向けてシンポジウム」新潟、2015年8月 撮影:高橋啓祐
“Symposium for Asian Women Performing Arts Conference”
organized by Asian Women Performing Arts Collective in Niigata,
August 2015. Photo: Keisuke Takahashi



Explatによる「ソーシャルスタートアップ・アクセラレータープログラム」でのプレゼンテーション東京、2016年3月
Presentation by Explat at “Social Startup Accelerator Program” in
Tokyo, March 2016.

度のリサーチの報告と各国のメンバーによるキュレーションのプレゼンテーションが行われ、国内の観客、関係者との共有の機会となった。報告とプレゼンテーションは2016年度を通じて順次ウェブサイトにて公開される。フェスティバル/トーキョー実行委員会による「APAFアートキャンプ(舞台芸術国際共同制作者人材育成事業)」は、アジアの演劇・舞踊の創作に関わる若手人材を対象に、観劇、ディスカッション、レクチャー、ワークショップ等を通じ、自身の問題意識や手法を見つめ直す「感性を鍛える」プログラム。これまで日本のフェスティバルでは行われていなかった演劇人のための交流プログラムとして貴重な機会だった。参加者は8日間、濃密なプログラムの元、共に時間を過ごし、対話をすることで、それぞれが思考を深めていった様子が、最終公開プレゼンテーションと報告書から伺われた。今後のプロジェクトにつながる提案もなされたようで展開に期待したい。

2年目の助成となるシアター・アクセシビリティ・ネットワークによる「観劇サービス支援事業」は、団体や活動の認知度も高まっている。特に代表者の芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門新人賞受賞により、メディアにも広く取り上げられ、活動の場も広がっているようだ。2016年4月施行の障害者差別解消法、2020年開催予定のパラリンピックを追い風に、より一層の活動の展開と政策提言に期待する。クリエイティブ・アート実行委員会による「境界を越えるダンス」は、7月にアダム・ベンジャミン振付の作品、11月にカンパニーの芸術監督、岩淵多喜子振付の作品を発表し、いずれも複数の舞踊批評家による公演評で取り上げられ、コンテンポラリーダンス作品としての芸術性を評価された。身体障害のある人たちと健常者によるダンス・カンパニーによって新しい舞踊の可能性を探るという目標に近づいている。またワークショップ活動の機会も生まれてきている。活動の継続により芸術性やカンパニーの認知度が高まることで、パラリンピックに向けても、活動環境が改善され、多くの人に広まることも期待したい。



クリエイティブ・アート実行委員会「境界を越えるダンス」東京、2015年11月
写真提供：クリエイティブ・アート実行委員会
“Dance beyond borders” organized by Creative Art Executive Committee in Tokyo, November 2015.
Photo: Creative Art Executive Committee

助成最終年度となった吾妻橋 ダンスクロッシング 実行委員会による、「SNAC パフォーマンス・シリーズ2015」では、過去2年間に引き続き、実験的なパフォーマンス6作品が上演された。これまでもこの事業で作品を発表してきているコンテンポラリーダンスの振付家、神村恵の作品に大きな進展が見られたのも成果と言えよう。現在は会場の都合で、新プログラムは予定されていないが、実験的なパフォーマンスを上演できる貴重な機会の再開が待たれる。Dance Fanfare Kyoto実行委員会による「Dance Fanfare Kyoto 03」は参加者同士の交流が生まれるなど、当初から目指していた関西のコンテンポラリーダンス界の活性化に寄与した。今年度は、より多くの観客により深くコミットしてもらうため、観客同士の対話の場やワークショップも設定した。自発的に活動を展開していける若手アーティストが増え、プログラムの柱の1つでもあった他ジャンルと交流も継続されることで活発なシーンとなっていくことを期待したい。またボディ・アーツ・ラボラトリーによる「ウェン・ウェア・フェスティバル 2015」では、他ジャンルからもキュレーターを起用したことにより、ダンスや身体に対する新鮮な試みが行われた。7回目を終え、2017年度に新たにキュレーターを起用して再開予定とのこと。様々な興味深いプログラムが、より多くの観客を得、共有されることを望みたい。Ko & Edge Co.による「瞬間の学校」は、室伏鴻の急逝により講師を変更しての実施となったが、室伏鴻の舞踊を他者の視点から考える機会ともなったのではないだろうか。今後も様々な形で室伏鴻の舞踊が継承され発展していくことを願う。Dance Theatre LUDENSによる「第9回東京国際ダンスワークショップ ReAction」は、年度末にこれまでのReActionの参加者がDance Theater LUDENSの公演に出演し、この事業の若手ダンサーの育成成果を実感できる機会ともなった。



吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会「SNAC パフォーマンス・シリーズ2015」森下スタジオ、2016年3月 撮影：松本和幸
“SNAC Performance Series 2015” organized by Azumabashi Dance Crossing Committee at Morishita Studio, March 2016.
Photo: Kazuyuki Matsumoto

The Creative Environment Improvement Program awarded grants to 11 projects in 2015.

This year, we provided part of the expenses of, and offered Morishita Studio and its guest rooms upon request to, projects that tried to identify current problems in the contemporary theater and dance sectors and to propose creative solutions. For workshops, we offered Morishita Studio and its guest rooms.

We supported four establishment activities of new organizations and projects. Asian Women Performing Arts Collective held "Symposium for Asian Women Performing Arts Conference" at Echigo-Tsumari Art Triennale to revive the "Conference for Asian Women and Theatre" that was launched by the late Koharu Kisaragi in 1992 and to discuss what the revival would mean as well as the history, present, future and tasks of performing arts by Asian women. A report meeting was held at Morishita Studio in autumn. A camp workshop preceding the symposium promoted exchange with international guests, which led to their 2016 project in continuation. The report meeting drew much attention, and a number of performing arts practitioners and critics participated in it. We expect that the grassroots exchange will develop and expand. Explat is an intermediary for personnel training and improvement of labor environment for art management professionals. As a specialist organization, they gather and offer information of employment support, research, study and advocate in order to help performing arts managers work in sustainable and productive ways. A functional and informative website was launched in 2015, and explanatory meetings about performing arts organizations' internship and seminars for young performing arts managers were held in cooperation with various intermediaries in the performing arts sector. They also exchanged with other sectors through participation in supporting projects for social startups. "Scene/Asia – Toward Active Spectatorship" by Arts Commons Tokyo creates

a four-language (Japanese, Chinese, Korean and English) platform on their website based on their idea that vitalization of critique is indispensable to have performing arts function more effectively in society. In a symposium held in Tokyo in February 2016, their 2015 activities were reported and members from various countries had curatorial presentations, which was a good opportunity for sharing ideas with Japanese audiences and professionals. The reports and presentations will be published on the website in 2016. "APAF Art Camp (Performing Arts International Collaboration Intensive Course)" by Festival/Tokyo Executive Committee was a "sensitivity training" program, where young people who engage in Asian theater/dance creations reflected on their own consciousness and methodologies through seeing performances, discussions, lectures and workshops. Exchange program for theater practitioners had not been organized in festivals in Japan, so it was an important opportunity. The participants spent time together for eight days, taking part in the intense program and having conversation with each other. The final public presentation and the report spoke for how that had let them deepen their thoughts. We hear that proposals for future projects were made, and look forward to the development.

The visibility of "Supporting access on theatre project" and its organizer, Theatre Accessibility network, which entered its second grant-receiving year, has been raised. Especially, the fact that the representative received The Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology's Art Encouragement Prize for New Artists was featured by media, which led to expansion of their activities. The Act on the Elimination of Discrimination against Persons with Disabilities that was enforced in April 2016 and the Paralympics in 2020 should accelerate their development and advocacy. "Dance beyond borders" by Creative Art Executive Committee presented a choreographic work by Adam Benjamin in July and



芸術公社「Scene/Asia –アジアの観客空間をつくる」アニュアル・シンポジウム 2016 東京、2016年2月 Annual Symposium 2016 of "Scene/Asia –Toward Active Spectatorship" organized by Arts Commons Tokyo in Tokyo, February 2016.



Dance Theatre LUDENS「第9回東京国際ダンスワークショップ ReAction」森下スタジオ、2015年8月 "The 9th International Dance Workshop ReAction" organized by Dance Theatre LUDENS at Morishita Studio, August 2015. Dance Theatre LUDENS

another by Takiko Iwabuchi, the artistic director of the company, both of which were highly acknowledged by dance critics in their artistry as contemporary dance pieces. They are getting closer to their goal: exploration of possibility of new dance by a dance company formed by disabled and currently non-disabled members. They have also had more opportunities for workshops. We expect that the continuation of their activities will make their artistic achievement and company even more visible and improve the environment of their activity toward the Paralympics.

In "SNAC Performance Series 2015" by Azumabashi Dance Crossing Committee in their final grant-receiving year, six experimental performances were presented in continuation of the previous two years. The fact that the piece by Megumi Kamimura, who had presented her works in this project, exhibited significant improvement should be one of the outcomes of the project. They do not plan for a new program due to issues regarding the venue, but we look forward to a restart of the project that offers a precious opportunity for presenting experimental performances. "Dance Fanfare Kyoto 03" by Dance Fanfare Kyoto contributed to the revitalization of the contemporary dance scene in the Kansai area, creating exchange between participants, as they aimed to from the beginning. This year, in order to have more audience members commit themselves more deeply to the project, a place for discussions among audience members and workshop were held. We expect that there will be more young artists who are capable of developing their activities spontaneously, the exchange with other genres that was one of the main concepts of the program will continue, and eventually the scene will be more vital. "Whenever Wherever Festival 2015" by Body Arts Laboratory involved curators from other backgrounds to approach dance and the body with a fresh point of view. It was the seventh edition, and the festival is planned to start again in 2017 with new

curators. We expect that their interesting programs will be shared among a larger number of audiences. Unfortunately, "The School of Moment" by Ko & Edge Co. was carried out with a different instructor due to the sudden death of Ko Murobushi, but it might have also been an opportunity for reflecting on his butoh from another point of view. We hope that the butoh of Ko Murobushi will be handed down and develop in many different ways. "The 9th International Dance Workshop ReAction" by Dance Theatre LUDENS was an opportunity where the outcome of their training for young dancers in this project was made visible, having the participants of ReAction perform in Dance Theatre LUDENS at the end of this fiscal year.



ボディ・アーツ・ラボラトリー「ウェン・ウェア・フェスティバル 2015」森下スタジオ、2015年12月 "Whenever Wherever Festival 2015" organized by Body Arts Laboratory at Morishita Studio, December 2015.



Dance Fanfare Kyoto実行委員会「Dance Fanfare Kyoto 03」京都、2015年5月 撮影:Yuki Moriya
"Dance Fanfare Kyoto 03" organized by Dance Fanfare Kyoto in Kyoto, May 2015. Photo: Yuki Moriya



フェスティバル/トーキョー実行委員会「APAFアートキャンプ」東京、2015年11月
"APAF Art Camp" organized by Festival/Tokyo Executive Committee in Tokyo, November 2015.

<p>アジア女性舞台芸術会議実行委員会 アジア女性舞台芸術会議に向けてシンポジウム 2015年7月27日-11月22日 新潟、東京(越後妻有「上郷クローブ座」、森下スタジオ) 500,000円 スタジオ提供:1日間</p>	<p>特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 観劇サービス支援事業 2015年4月1日-2016年3月31日 東京(森下スタジオ他) 1,000,000円 スタジオ提供:1日間</p>
<p>吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会 SNAC パフォーマンス・シリーズ2015 2015年4月1日-2016年3月31日 東京(SNAC、森下スタジオ他) 800,000円 スタジオ提供:4日間</p>	<p>Dance Theatre LUDENS 第9回東京国際ダンスワークショップ ReAction 2015年8月3日-2016年3月13日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供:24日間 ゲストルーム提供:22日間</p>
<p>特定非営利活動法人 Explat 人材育成と労働環境整備のための中間支援組織「Explat」の設立 2015年4月1日-2016年3月31日 東京、大阪(あうるすぽっと、森下スタジオ、 クリエイティブセンター大阪他) 800,000円 スタジオ提供:1日間</p>	<p>Dance Fanfare Kyoto実行委員会 Dance Fanfare Kyoto 03 2015年4月25日-6月27日 京都(元・立誠小学校、weekend café、京都造形芸術大学他) 1,000,000円</p>
<p>クリエイティブ・アート実行委員会 境界を越えるダンス 2015年4月25日-11月18日 東京(森下スタジオ、東京芸術センターホワイトスタジオ、 アサヒ・アートスクエア) 1,000,000円 スタジオ提供:34日間 ゲストルーム提供:35日間</p>	<p>フェスティバル/トーキョー実行委員会 APAFアートキャンプ(舞台芸術国際共同制作者人材育成事業) 2015年11月9日-11月17日 東京(にしすがも創造舎、東京芸術劇場、森下スタジオ他) 800,000円</p>
<p>特定非営利活動法人芸術公社 Scene / Asia —アジアの観客空間をつくる 2015年9月8日-2016年2月16日 ジャカルタ、クアラルンプール、光州、東京他(光州アジア文化殿堂、 SHIBAURA HOUSE) 500,000円</p>	<p>ボディ・アーツ・ラボラトリー ウェン・ウェア・フェスティバル 2015 2015年12月4日-12月13日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供:15日間</p>
<p>Ko & Edge Co. 瞬間の学校 2015年9月19日-9月23日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供:5日間</p>	

- **Arts Commons Tokyo**
Scene/Asia – Toward Active Spectatorship
 September 8, 2015–February 16, 2016
 Jakarta, Kuala Lumpur, Gwangju, Tokyo (Asia Arts Center, SHIBAURA HOUSE)
 ¥500,000
- **Asian Women Performing Arts Collective**
Symposium for Asian Women Performing Arts Conference
 July 27–November 22, 2015
 Nigata, Tokyo (Echigo Tsumari “Kamigo Clove Theatre”, Morishita Studio)
 ¥500,000 Studio Rental: 1 day
- **Azumabashi Dance Crossing Committee**
SNAC Performance Series 2015
 April 1, 2015–March 31, 2016
 Tokyo (SNAC, Morishita Studio, etc.)
 ¥800,000 Studio Rental: 4 days
- **Body Arts Laboratory**
Whenever Wherever Festival 2015
 December 4–December 13, 2015
 Tokyo (Morishita Studio)
 Studio Rental: 15 days
- **Creative Art Executive Committee**
Dance beyond borders
 April 25–November 18, 2015
 Tokyo (Morishita Studio, Art Center of Tokyo, Asahi Art Square)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 34 days Guestroom Rental: 35 days
- **Dance Fanfare Kyoto**
Dance Fanfare Kyoto 03
 April 25–June 27, 2015
 Kyoto (Former Rissei Elementary School, weekend café, Kyoto University of Art, etc.)
 ¥1,000,000
- **Dance Theatre LUDENS**
The 9th International Dance Workshop ReAction
 August 3, 2015–March 13, 2016
 Tokyo (Morishita Studio)
 Studio Rental: 24 days Guestroom Rental: 22 days
- **Explat**
Establishment of the service organization for working environment and human resource development “Explat”
 April 1, 2015–March 31, 2016
 Tokyo, Osaka (OWL SPOT, Morishita Studio, Creative Center Osaka, etc.)
 ¥800,000 Studio Rental: 1 day
- **Festival/Tokyo Executive Committee**
APAF Art Camp (Performing Arts International Collaboration Intensive Course)
 November 9–November 17, 2015
 Tokyo (NISHI-SUGAMO ARTS FACTORY, Morishita Studio, etc.)
 ¥800,000
- **Ko & Edge Co.**
The School of Moment
 September 19–September 23, 2015
 Tokyo (Morishita Studio)
 Studio Rental: 5 days
- **NPO Theatre Accessibility network**
Supporting access on theatre project
 April 1, 2015–March 31, 2016
 Tokyo (Morishita Studio etc.)
 ¥1,000,000 Studio Rental: 1 day

II パートナシップ・プログラム

Partnership Programs

2 現代演劇・舞踊助成 —国際プロジェクト支援

Contemporary Theater and Dance —International Projects Support Program

このプログラムでは、日本と海外双方のカンパニー／アーティストが協働して、複数年継続して作業が進展する国際プロジェクトに対して、最長3年にわたって助成金、および希望者には森下スタジオ、ゲストルームの使用優先権が付与される。2015年度は、新規が5件、2014年度からの継続が7件採択されたうち、11件の事業が実施された。

今年度より採択した事業のうち、現代における他者との関わりを扱った事業が2件。Jonathan M. Hallと、川口隆夫プロジェクトによる『Touch of the Other』は、アメリカにおける1960年代ゲイ解放運動のきっかけのひとつともなったロード・ハンフリーズによる調査研究論文『Tearoom Trade』をもとに、社会的に“正しい”とされる関係性だけではない多様なあり方を問う。作品は、アメリカ公演を経て、金沢21世紀美術館とスパイラルホールで上演され、多くの観客が足を運んだ。日本でもLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー)ということばが聞かれるようになったが、注目を集める一方で理解はまだ十分でない。そのような状況で、本事業として作品が、他者との関わりについて考える切り口で、(一部)観客参加型の作品となったことは、LGBTを考えるにあたり大きな一歩であろう。一方で個人の体験をもとに展開させた点で、当初意識したLGBT全体に言及したとはいえず、テーマを掘り下げる余地はまだありそう。今後再創作する機会と、上演機会を得て多くの目に触れる作品に成長して行く事を願う。

燐光群で劇作家として活躍する清水弥生が中心となって進める、「アジア共同プロジェクト」は、フィリピン女優マイルス・カナビをパートナーとしてアジアの移住労働、介護問題をジェンダーの視点をふまえて扱う。初年度は、フィリピンと日本での取材に始まり、海外人材の受け入れや今来日する移住労働者を取り巻く環境、など、多くの事例をリーディング上演として提示した。その後、森下スタジオで『Summer House After Wedding』を発表。事例を挙げていくと日本人と離婚しシエル



ARTizan「国際ダンス交流プロジェクト(Odori- Dawns- Dance)」岩手、2015年9月 撮影:塚田洋一 International Dance Dialogue Project 'Odori-Dawns-Dance' organized by ARTizan in Iwate, September 2015 Photo: Yoichi Tsukada



川口隆夫プロジェクト「川口隆夫2015 新作パフォーマンス『Touch of the Other』」東京、2016年1月 撮影:Bozzo Touch of the Other, Takao Kawaguchi Project in Tokyo, January 2016. Photo: Bozzo

ターに逃げ込むフィリピン人妻などステレオタイプな話ばかりにみえてくるが、実際にはそれぞれ個別の背景と人生があって、清水は、「他者を認めるということがどうして難しいのか」に焦点をあてた作品を目指す。これからフィリピンとタイのアーティストと共同制作していくなかで、清水に関わる介護現場の問題からジェンダーや人種の問題まで普遍的なテーマを扱う分、独自の取材と現場を知るからこそできる分析、そして劇作家としてどのように作品を立ち上げさせるかに注目したい。

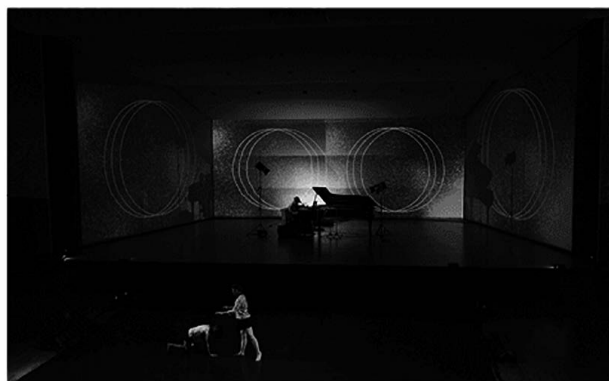
3年の支援を経て最終年度を迎えた事業は3件。k-kunstによる「国際共同制作(国内)ボゴタ×日本」は室伏鴻(1947-2015)の急逝により事業の再編成を余儀なくされ、室伏の意志を受け継ぐ形で〈外〉の千夜一夜vol.2が昨年に引き続き開催された。トークセッション、映像上映、パフォーマンスが行われた。共同制作の発展として、継続開催が予定されている、舞踊/室伏研究に主眼をおいた国際カンファレンスの第一回が行われたことは意義深い。これまで縁がなかったような層まで、広く様々な観客が集まり盛況だった。支援の最終年度は終了したが、同事業は人種・世代幅広いメンバーを集めたことで、我々がもつ制度や概念の〈外〉へ外へと向かった室伏の意志を、作品として発表して行く事、また急がれる研究や映像のアーカイブ化などで今後果たされるべき役割は大きい。

Borrowed Landscape Japanは、ベルギーを拠点に活躍するfieldworks(ハイン・アヴダル、篠崎由紀子)が日本の借景という概念を舞台芸術に取り入れ、空間の捉え方を通して日本のアーティストたち(柴幸男、山田うん、長内裕美、梅田哲也、白神ももこ等)と滞在制作と発表を重ねてきた「Borrowed Landscape Project」を実施。事業は、住宅ショールームの中で発表した『Borrowed Landscape Yokohama〜横浜借景』(2011)に始まっていたが、採択後は公演の計画と創作過程の見直しを行い、2013年度にはより創作に集中するため、1年度全てを滞在制作にあてた。更に、同事業初となる東京公演の機

会を得たため、事業を1年休止して4年目にスパイラル30周年の企画の中で、ビル全館を使ったサイトスペシフィック・パフォーマンスとして最終的な作品を発表した。観客は、最初に数名のグループに分けられ、パフォーマンスを案内役に建物内を巡り場所ごとに何かが起こる仕組み。公演以外の目的で訪れている客がいるカフェやギフト・ショップも会場となるので、日常の中に非日常が挿入され、その境界が曖昧になる様を感じながら、時間や空間の移動によって、関係性や視点が移行していくことで、観客も「鑑賞者」から「鑑賞される側」になることを体験する。制作、構成、出演と主要なパートを担うアーティストが多数関わることで共同作業の方法は難航したが、参加者それぞれにとって今後の活動へつながる大きな事業として着地した。

Fundatia Gabriela Tudor による「Eastern Connection」は、2011年 ヴিজティング・フェローとして来日したCosmin Monolescuによる事業で、ルーマニアと日本のダンス交流を促進させる狙い。初年度は、準備段階として複数回日本とルーマニアを行き来し、積極的に広報活動を行っていったことで、日本での事業遂行にも慣れ、協力者を増やしていった。振付家やダンサーだけでなく、批評家やプロデューサーもチームとして対等に巻き込んで行く企画は、日本でダンスフェスティバル「Dance New Air」での作品発表や若い世代へ向けたワークショップ、またルーマニアで山下残との共同演出作品『the kite』(Matei Brancoveanuダンス賞受賞)発表や映像紹介を通して日本の舞台芸術の理解を深めるフェスティバルが実施された。事業を通して、「What is Contemporary Dance?」(「コンテンポラリーダンスって何ですか?」)という問いかけをドキュメンタリー撮影も並行しながら問い続けた。人生そしてアーティストとしてのベースを落とし、(協働する)アーティストたちの声に慎重に耳を傾ける事を学んだ、と本人が報告するように、作品というかたちで生み出す事だけに執着せず、場所や人の関係作りに注力する事業の形が出来上がった。今回構築したネットワークを活かして、日本とルーマニアの継続した交流そして、新たな振付家との出会いを実現して欲しい。

継続中の事業は、それぞれに作品の上演場所を拡大するなど順調に進んでいる。余越保子『ZERO ONE』のニューヨーク公演は、ニューヨークタイムズ紙で恒例の批評家が選ぶ今年のThe Best Dance of 2015に選ばれた。作品は更に再創作を重ねて、いよいよ2016年東京公演を控えている。鈴木ユキオプロジェクトの「55: Music and Dance in Wood」は、アメリカと日本でconcrete、woodという2つのテーマをもとに双方で作品を発表してきたが、事業としては、2年目からの支援のため、事業終了と共に2年度で当財団の支援は終了した。鈴木ユキオ自身もアメリカに長期滞在するなど、その後の活動や作品の強度からも事業がアーティストを新たな展開に後押ししたことがうかがえる。



鈴木ユキオプロジェクト「55: Music and Dance in Wood」青森、2015年7月 撮影:南郷アートプロジェクト

55: Music and Dance in Wood, YUKIO SUZUKI Projects in Aomori, July 2015 Photo: Nango Art Project

This program awards grants for up to three years to multi-year international projects for which Japanese and foreign companies or artists work with each other. Priority use of Morishita Studio and its guest rooms are also awarded upon request. In 2015, five projects were newly chosen as grantees in addition to the seven ongoing projects since the previous year, and 11 of them were carried out.

Two of the newly selected projects were about relationships with others in the contemporary world. *Touch of the Other* by Jonathan M. Hall and Takao Kawaguchi Project, based on a study "Tearoom Trade" by Laud Humphreys that was one of the triggers of the gay liberation movement in the U.S. in the 1960s, raised a question about diversity of the forms of relationships including those that are not necessarily considered as "normal." The work was presented at the 21st Century Museum of Contemporary Art in Kanazawa and Spiral Hall in Tokyo after a U.S. tour, drawing a lot of audiences. The term "LGBT" has been more popular than before in Japan, but the understanding of the word has been behind its popularity. The fact that the approach to relationships with others in the project and performance involved participation of audience members should mean a lot in promoting understanding of the idea of LGBT. On the other hand, it did not thoroughly explore LGBT in a broad sense, which the project aimed to in the beginning, because it eventually took the form of a performance based on personal history. We look forward to another opportunity for reworking the project, investigating the theme more thoroughly, and developing it into a piece that will communicate to a large number of audiences.

"Asia Collaborative Project", led by Yayoi Shimizu, who writes plays for the Theater Company Rinko-gun, tackles gender issues around migrant workers and nursing care with Filipino actress Mailes Kanapi as her partner. In the first year, they did research in the Philippines and Japan and introduced a number of examples of the ways foreign workers are accepted in Japan and the environments that surround them

in the form of reading performances. *Summer House After Wedding* was presented after that. The stories such as a Filipino housewife divorcing her Japanese husband and escaping to a shelter are apparently stereotypical, but each story is based on real-life events. Shimizu pursues expression that casts a light on the "difficulty of recognizing the other." She is going to collaborate with Filipino and Thai artists working on universal themes including the issues of nursing care, an area which she is involved in, or gender and race. We look forward to their dramatic approach that should reflect their analysis based on unique research and real-life experiences.

Three projects completed their three-year grant-receiving terms. "International Collaboration Project Bogota x Japan" by k-kunst had to reorganize the project due to the sudden death of Ko Murobushi (1947-2015), and produced "One Thousand and One Nights of the <Outside> vol. 2" in succession to his project in the previous year, where talk sessions, screenings and performances were held. It is meaningful that an international conference on butoh and Murobushi was held in the project that is planned to continue aiming to develop co-production. The audience members were diverse, including those who had not been familiar to butoh. The grant-receiving term has ended, but the project should be going to play important roles such as artistic creation that communicates the will of Murobushi, who incessantly explored the "outside" of established systems and concepts, and study and video archiving that have to be worked on as soon as possible.

Borrowed Landscape Japan organized "Borrowed Landscape Project" where fieldworks (Heine Avdal and Yukiko Shinozaki) based in Belgium worked on residence creations and performances together with Japanese artists (Yukio Shiba, Un Yamada, Yumi Osanai, Tetsuya Umeda, Momoko Shiraga, etc.) employing the Japanese spatial idea of "shakkei (borrowed landscape)." The project had already started with *Borrowed Landscape Yokohama* (2011) that was presented in a model house in a housing exhibition site,



横光群「アジア共同プロジェクト」森下スタジオ 2016年1月 撮影: 姫田蘭
Asia Collaborative Project organized by Theater Company Rinko-gun, at Morishita Studio, January 2016 photo: Ran Himeda



Borrowed Landscape Japan「Borrowed Landscape Project」東京、2015年10月
"Borrowed Landscape Project" organized by Borrowed Landscape Japan in Tokyo, October 2015.

and after being selected for this grant, the performance plans and creation process were reorganized. They used the whole year for a residency in order to concentrate more on the creation in 2013, and then they received the first offer for a show in Tokyo, for which they suspended the project for a year and presented a site specific work in their fourth year that used the whole building of Spiral, which celebrated their 30th anniversary. The audience members were divided into small groups, and performers navigated them through the rooms and spaces in the building where something would happen at each spot. There were people irrelevant to the performances in the café or gift shop in the building, so the unusual intervened into the quotidian, and the boundary was blurred. Through temporal and spatial migration, slippages would occur in the relationships and points of view of the audience, and they would experience transformation from "viewers" to "performers." A lot of artists were involved in the main roles including producing, direction and performance, which made the collaborative process complicated, but the project completed as an important experience for each participant that should contribute to their future activities.

"Eastern Connection" by Fundatia Gabriela Tudor was organized by Cosmin Manolescu, a 2011 Visiting Fellow, to promote dance exchange between Romania and Japan. In the first year, he moved back and forth between Japan and Romania and actively promoted the project, through which the work in Japan became easier for him and gained cooperators. The project involved not only choreographers and dancers but also critics and producers forming a team without hierarchy, and brought performances and workshops for young people to Dance New Air, a festival in Japan, and *the kite*, a collaboration with Zan Yamashita (which received the Matei Brancoveanu Dance Prize), and a video presentation to Romania, where a festival for promoting understanding of Japanese performing arts was held. They kept asking the question, "What is contemporary dance?" throughout the project making the video documentary. As Manolescu reported, he

learned how to pace down his life and artistic activity and to carefully listen to artists whom he worked with; a project that does not insist only on creating productions but puts importance on development of relationships between places and people was established. We expect that he will continue to promote exchange between Japan and Romania and encounter new choreographers, to which the network he has built should contribute.

The ongoing projects have been successful and geographically expanding. The performance of *ZERO ONE* by Yasuko Yokoshi was selected by critics as The Best Dance of 2015 in The New York Times. The piece has been on a re-creation process, and will be presented in Tokyo in 2016. *55: Music and Dance in Wood* by YUKIO SUZUKI Projects with "concrete" and "wood" as its themes has been presented in the U.S. and Japan. We started to support the project in its second year, so the end of the project also put an end to our support in its second year. Yukio Suzuki's long-term residence in the U.S. and the intensity of his activities and works after the project speaks for the fact that the project stimulated him into a new direction.



Fundatia Gabriela Tudor「EASTERN CONNECTION」ブカレスト、2015年11月
"EASTERN CONNECTION" organized by Fundatia Gabriela Tudor in Bucharest, November 2015.



DOMINO「Balkan-US-Japan Research and development」ザグレブ、2015年7月
"Balkan-US-Japan Research and development" organized by DOMINO in Zagreb, July 2015.

ARTizan

国際ダンス交流プロジェクト《Odori- Dawns- Dance》

2015年8月1日-12月27日

岩手、兵庫、東京(陸前高田、神戸、女子美術大学、森下スタジオ他)
1,000,000円 スタジオ提供:14日間 ゲストルーム提供:30日間

オフ・ニブロール

ダンス・イン・アジア 2015

2015年7月24日-7月26日

神奈川(STスポット)

1,000,000円

川口隆夫プロジェクト

川口隆夫2015 新作パフォーマンス『Touch of the Other』

2015年4月1日-2016年1月17日

ロサンゼルス、金沢、東京(ONE Archives、REDCAT Theatre、森下スタジオ、金沢21世紀美術館シアター21、スパイラルホール)

1,500,000円 スタジオ提供:24日間 ゲストルーム提供:12日間

k-kunst

国際共同制作(国内) ボゴタ×日本

2016年2月4日-2月22日

東京、神奈川(森下スタジオ、赤レンガ倉庫)

1,000,000円 スタジオ提供:13日間 ゲストルーム提供:26日間

2015年度までの助成金額(単位:円)

2013年度	2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

鈴木ユキオプロジェクト

『55: Music and Dance in Wood』

2015年4月2日-7月5日

兵庫、青森、神奈川(城崎国際アートセンター、八戸市南郷文化ホール、相模湖交流センター)

1,000,000円 スタジオ提供:12日間

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

株式会社 ティーフクトリー

東京/ニューヨーク 往復書簡 2014-2016 第二章『森にて』

2015年6月29日-12月15日

東京、ニューヨーク(森下スタジオ、La MaMa Galleria)

1,000,000円 スタジオ提供:7日間 ゲストルーム提供:11日間

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
800,000	1,000,000	1,800,000

DOMINO

Balkan-US-Japan Research and development: residencies, dance, music and visual arts on social issues (Identity and Economics of Identity) and audience communication

2015年6月7日-2016年3月31日

ザグレブ、バグ島、東京(Zagreb Youth Theatre、森下スタジオ他)

1,500,000円 スタジオ提供:13日間 ゲストルーム提供:22日間

Fundatia Gabriela Tudor

EASTERN CONNECTION

2015年9月6日-11月13日

東京、兵庫、ブカレスト(森下スタジオ、城崎国際アートセンター、National Dance Center)

1,500,000円 ゲストルーム提供:13日間

2015年度までの助成金額(単位:円)

2013年度	2014年度	2015年度	合計
1,500,000	1,500,000	1,500,000	4,500,000

Borrowed Landscape Japan

Borrowed Landscape Project

2015年9月28日-10月12日

東京(森下スタジオ、スパイラル[全館])

1,000,000円 スタジオ提供:3日間 ゲストルーム提供:16日間

2015年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

2014年度は事業休止

余越保子

『ZERO ONE』

2015年7月5日-9月26日

京都、フロリダ、ニューヨーク(京都芸術センター、Maggie Allesee

National Center for Choreography、Dance Project)

1,000,000円

2015年度までの助成金額(単位:円)

2014年度	2015年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

燐光群/有限会社グッドフェローズ

アジア共同プロジェクト

2015年8月1日-2016年2月1日

東京、フィリピン(下北沢ザ・スズナリ、森下スタジオ 他)

800,000円 スタジオ提供:27日間 ゲストルーム提供:56日間

ARTizan

**International Dance Dialogue Project
'Odori-Dawns-Dance'**

August 1–December 27, 2015
Iwate, Hyogo, Tokyo (Iwate Rikuzentakata City, Kobe, Joshibi
Art University, Morishita Studio)
¥1,000,000
Studio Rental: 14 days Guest Room Rental: 30 days

Borrowed Landscape Japan

Borrowed Landscape Project

September 28–October 12, 2015
Tokyo (Morishita Studio, Spiral)
¥1,000,000
Studio Rental: 3 days Guest Room Rental: 16 days
Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	2015	Total
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

DOMINO

**Balkan-US-Japan Research and development:
residencies, dance, music and visual arts on social
issues (Identity and Economics of Identity) and
audience communication**

June 7, 2015–March 31, 2016
Zagreb, Pag, Tokyo (Zagreb Youth Theatre,
Morishita Studio, etc)
¥1,500,000
Studio Rental: 13 days Guest Room Rental: 22 days

Fundatia Gabriela Tudor

EASTERN CONNECTION

September 6–November 13, 2015
Tokyo, Hyogo, Bucharest (Morishita Studio, Kinokuniya
International Center, National Dance Center)
¥1,500,000 Guest Room Rental: 13 days
Amount of continuous grants (in yen)

2013	2014	2015	Total
1,500,000	1,500,000	1,500,000	4,500,000

Takao Kawaguchi Project

Touch of the Other

April 1, 2015–January 17, 2016
Los Angeles, Tokyo, Kanazawa (ONE Archives, REDCAT
Theatre, Morishita Studio, 21st Century Museum of
Contemporary Art KANAZAWA, SPIRAL HALL)
¥1,500,000
Studio Rental: 24 days Guest Room Rental: 12 days

k-kunst

International Collaboration Project BogotaxJapan

February 4–February 22, 2016
Tokyo, Kanagawa (Morishita Studio, Yokohama Red Brick
Ware House)
¥1,000,000
Studio Rental: 13 days Guest Room Rental: 26 days
Amount of continuous grants (in yen)

2013	2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

off-nibroll

DANCE IN ASIA 2015

July 24–July 26, 2015
Kanagawa (ST Spot)
¥1,000,000

YUKIO SUZUKI Projects

55: Music and Dance in Wood

April 2–July 5, 2015
Hyogo, Aomori, Kanagawa (Kinokuniya International Arts Center,
Hachinohe City Nango Cultural Hall, Kanagawa Prefectural
Lake Sagami-ko Exchange Center)
¥1,000,000 Studio Rental: 12 days
Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

TFactory

John Jesurun & Takeshi Kawamura

Collaboration Project

**Tokyo/ New York correspondence Chapter 2,
In the Forest**

June 29–December 15, 2015
New York, Tokyo (Morishita Studio, La MaMa Galleria)
¥1,000,000
Studio Rental: 7 days Guest Room Rental: 11 days
Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
800,000	1,000,000	1,800,000

Theater Company Rinko-gun/Good Fellows. Inc.

Asia Collaborative Project

August 1, 2015–February 1, 2016
Tokyo, Republic of the Philippines (Shimokitazawa The
SUZUNARI, Morishita Studio, etc.)
¥800,000
Studio Rental: 27 days Guest Room Rental: 56 days

Yasuko Yokoshi

ZERO ONE

July 5–September 26, 2015
Kyoto, Florida, New York (Kyoto Arts Center, Maggie Allesee
National Center for Choreography, Danspace Project)
¥1,000,000
Amount of continuous grants (in yen)

2014	2015	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Ⅱ パートナースhip・プログラム

Partnership Programs

3 現代演劇・舞踊助成

—芸術交流活動[非公募]

Contemporary Theater and Dance
—Artistic Exchange Project Grant
Program [designated fund program]

海外の非営利団体との継続的パートナーシップに基づく本プログラムでは、人物交流事業や日本文化紹介事業に対して助成を行っている。

1989年より支援している、ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)が日米の芸術家、学者、専門家、機関を対象に行っている相互的フェロースhipプログラムに対して助成。本年度助成金は、2016年度以降ACC Saison Foundation Fellow*としてアメリカ/日本へ渡航・滞在する対象者に支給される。*2016年より名称改訂

中村茜(アーツアドミニストレーション)

6ヶ月/東南アジアにおけるパフォーマンス・アーツの現況調査及びアジアにおけるアーティストの制作環境についての調査。

山崎阿弥(美術/パフォーマンス・アーツ)

6ヶ月/ニューヨークにおける詩の文化や、さまざまな領域における芸術の調査、および、アーティスト、キュレーター、一般市民へのインタビュー実施。

横山義志(演劇)

6ヶ月/米国で活動するアジアのパフォーマンスアーティストおよびパフォーマンススタディーズの思考法の調査。

ヤンヒー・リー(アメリカ・ダンス)

3ヶ月/富山県で開催される鈴木忠志氏の世界演劇祭「利賀フェスティバル」への参加、および、東京、京都にてダンス・演劇の調査。

同じく、支援を続けているジャパン・ソサエティーによる、日本現代戯曲英語版プレイ・リーディング・シリーズは、日本の現代演劇を北米に紹介するべく、日本人劇作家による現代戯曲の英訳版を、米国人演出家が米国人キャストを起用してリーディング形式で紹介する事業。2016年3月範宙遊泳主宰、山本卓卓『幼女X』が「Girl X」として紹介された。同リーディングの上演は、Charlotte Brathwaiteを演出家として迎え、ジャパン・ソサエティーにて一般観客を対象に公開され好評を博した。アフタートークには、山本本人も登場し作品に熱狂した観客との時間を過ごした。事業の様子は、インターネット同時配信により日本の観客にも届けられた。



ジャパン・ソサエティー「日本現代戯曲英語版プレイ・リーディング・シリーズ」ニューヨーク、2016年3月 Play Reading: Contemporary Japanese Plays in English Translation Series organized by Japan Society, Inc. in New York, March 2016

This program, which is based on continuing partnership with non-profit organizations outside of Japan, supports projects for personnel exchange and promotion of Japanese culture.

Since 1989, The Saison Foundation has given support each year to the Japan-United States Arts Program, an interactive fellowship program of the New York-based Asian Cultural Council (ACC) for U.S. and Japanese artists, scholars, specialists and organizations. From 2016, the grant will be awarded to those who visit or stay in the U.S. or Japan as ACC Saison Foundation Fellows (the program was renamed in 2016).

Akane Nakamura (Arts Administration)

A six-month grant to conduct research on the current state of performing arts in Southeast Asia, and learn more about platforms for contemporary artistic productions in Asia.

Ami Yamasaki (Visual Arts / Performing Arts)

A six-month grant to research on the poetry scene and the art forms in a wide range of disciplines, and to conduct interviews with artists, curators, and the locals in New York City.

Yoshiji Yokoyama (Theater)

A six-month grant to research Asian performing artists who are based in the United States and study current methods in the performance studies field.

Yanghee Lee (Dance)

Participation in Tadashi Suzuki's Toga International Arts Festival in Toyama prefecture and exploration into dance and theater activities in Tokyo and Kyoto during a three-month grant.

Play Reading Series: Contemporary Japanese Plays in English Translation, which we have been supporting continually too, is a project by Japan Society, Inc. for introducing English translations of Japanese contemporary plays to North America by having American directors and cast for readings. In March 2016, *Girl X* by Suguru Yamamoto, the leader of Hanchu-Yuei, was presented by inviting Charlotte Brathwaite as the director at Japan Society and was well received. Yamamoto took part in the post-performance talk and shared his ideas with the audience who were enthusiastic about the piece. The event was broadcast via the Internet to Japanese audiences.

現代演劇・舞踊助成
芸術交流活動[非公募]

Contemporary Theater and Dance
-Artistic Exchange Project Grant Program
[designated fund program]

助成対象2件/助成総額6,500,000円
2 Grantees / Total appropriations: ¥6,500,000

アジア・カルチュラル・カウンシル

日米芸術交流プログラム(2016年度の活動に充当)
2016年1月1日-12月31日
アメリカ、日本
6,000,000円

ジャパン・ソサエティー

日本現代戯曲英訳版プレイ・リーディング・シリーズ『Girl X』
(山本卓卓/範宙遊泳『幼女X』)
2016年3月21日
ニューヨーク
500,000円

Asian Cultural Council

ACC Japan-United States Arts Program Fellowships
(for activities taking place in year 2016)
January 1-December 31, 2016
U.S., Japan
¥6,000,000

Japan Society, Inc.

Play Reading: Contemporary Japanese Plays in
English Translation Series
Suguru Yamamoto's *Girl X*, directed by
Charlotte Brathwaite
March 21, 2016
New York
¥500,000

現代演劇・舞踊助成
—フライト・グラント

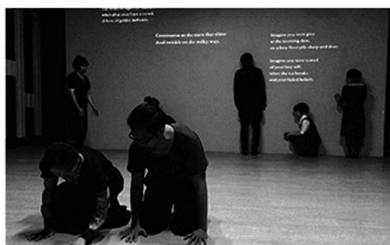
Contemporary Theater and Dance
—Flight Grant

海外から公演、アーティスト・イン・レジデンス、コンペティション、ワークショップ、会議参加などへ招聘を受けた芸術家、制作者に対して国外への渡航費を支援。招聘されたにもかかわらず、海外と日本の会計年度の違いなどにより渡航費の手配が間に合わなかったという理由で、貴重な機会を逃すことを避けるため、渡航目的の重要性、緊急性を鑑みて助成する。

We offered flight costs to artists and managers who were invited to perform, or to take part in artist-in-residencies, competitions, workshops and conferences in foreign countries. The grant is offered in accordance with the importance and urgency of the purposes of traveling to avoid opportunities loss due to difficulty in covering flight costs that are caused by the difference in when a fiscal year starts and ends between countries.



小川てつオ「ファスト フォワード フェスティバル 2 X アノキトメント アテネ」アテネ 2015年5月 “FAST FORWARD FESTIVAL 2 X Apartments Athens”, Tetsuo Ogawa, in Athens, May 2015



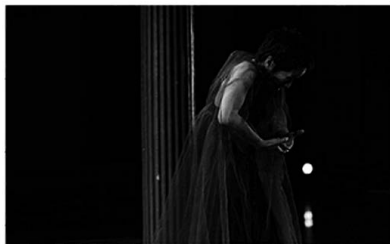
川渕優子、矢野靖人「『Low Fat Art: Fest 100% concentrate art pieces vo.1』shelf『deprived』上演」バンコク 2015年11月 撮影:shelf “Low Fat Art Fest: Low Fat Art: Fest 100% concentrate art pieces vo.1 deprived theater company shelf”, Yuko Kawabuchi and Yasuhito Yano, in Bangkok, November 2015 photo: shelf



杉山剛志、蔡恵美「第60回ステリノ・ボゾリエ国際演劇フェスティバル」他巡演 センタ 2015年6月 “60th STERIJINO POZORJE FESTIVAL 2015” and more, Tsuyoshi Sugiyama and Hemi Che in Senta, June 2015



高崎拓郎、中島香菜「カルタゴ演劇祭」開幕ペナントレース公演 チュニス 2015年10月 theater company Kaimaku Pennant Race in “Les Journées théâtrales de Carthage”, Takuro Takasaki and Kana Nakajima, in Tunis, October 2015



福岡まな実「Double plus performance series “Making Space” Fall 2015での『3人のダンス』上演」ニューヨーク 2015年11月 *Dance of a Trio* in “Double plus performance series “Making Space” Fall 2015”, Manami Fukuoka, in New York, November 2015



藤原ちから「『演劇クエスト デュッセルドルフ編 パイロット版』@Nippon Performance Night 2015」デュッセルドルフ 2015年10月 撮影:Noriyuki Kimura *ENGEKI QUEST Düsseldorf pilot version @Nippon Performance Night 2015*, Chikara Fujiwara, in Düsseldorf, October 2015 photo: Noriyuki Kimura

<p>小川てつお ファスト フォワード フェスティバル2 X アpartment アテネ 2015年5月14日-5月28日 アテネ(アテネ中央駅) 68,791円</p>	<p>Tetsuo Ogawa FAST FORWARD FESTIVAL 2 X Apartment Athens May 14-28, 2015 Athens (Athens Central Station) ¥68,791</p>
<p>川瀬優子 Low Fat Art Fest: 100% concentrate art pieces vol.1 shelf [deprived] 上演 2015年11月1日-11月16日 バンコク([Bangkok Theatre Festival]) 60,480円</p>	<p>Yuko Kawabuchi Low Fat Art Fest: 100% concentrate art pieces vol.1 deprived theater company shelf November 1-November 16, 2015 Bangkok "Bangkok Theater Festival") ¥60,480</p>
<p>矢野端人 Low Fat Art Fest: 100% concentrate art pieces vol.1 shelf [deprived] 上演 2015年11月1日-11月16日 バンコク([Bangkok Theatre Festival]) 60,480円</p>	<p>Yasuhito Yano Low Fat Art Fest: 100% concentrate art pieces vol.1 deprived theater company shelf November 1-November 16, 2015 Bangkok "Bangkok Theater Festival") ¥60,480</p>
<p>杉山剛志 第60回ステリーノ・ボゾリエ国際演劇フェスティバル 2015年5月23日-6月21日 ベオグラード、ノヴィ・サド他(セルビア) (ズベスダーラ劇場、ユースシアター他) 57,810円</p>	<p>Tsuyoshi Sugiyama 60th STERIJINO POZORJE FESTIVAL 2015 May 23-June 21, 2015 Belgrade, Novi Sad etc. (Serbia) (Zvezdara Theater, The Youth Theatre etc.) ¥57,810</p>
<p>蔡恵美 第60回ステリーノ・ボゾリエ国際演劇フェスティバル 2015年5月23日-6月11日 ベオグラード、ノヴィ・サド他(セルビア) (ズベスダーラ劇場、ユースシアター他) 54,810円</p>	<p>Hemi Che 60th STERIJINO POZORJE FESTIVAL 2015 May 23-June 11, 2015 Belgrade, Novi Sad etc. (Serbia) (Zvezdara Theater, The Youth Theatre etc.) ¥54,810</p>
<p>高崎拓郎 Les Journées théâtrales de Carthage カルタゴ演劇祭 開幕ベナントレース「1969: A Space Odyssey? Oddity!」上演 2015年10月17日-26日 チュニス(Le Carre d'Art El Teatro) 83,292円</p>	<p>Takuro Takasaki Les Journées théâtrales de Carthage 1969: A Space Odyssey? Oddity! theater company Kaimaku Pennant Race October 17-October 26, 2015 Tunis (Le Carre d'Art El Teatro) ¥83,292</p>
<p>中島香葉 Les Journées théâtrales de Carthage カルタゴ演劇祭 開幕ベナントレース「1969: A Space Odyssey? Oddity!」上演 2015年10月17日-26日 チュニス(Le Carre d'Art El Teatro) 83,292円</p>	<p>Kana Nakajima Les Journées théâtrales de Carthage 1969: A Space Odyssey? Oddity! theater company Kaimaku Pennant Race October 17-October 26, 2015 Tunis (Le Carre d'Art El Teatro) ¥83,292</p>
<p>福岡まな実 Double plus performance series "Making Space" Fall2015「3人のダンス」上演 2015年11月6日-11月24日 ニューヨーク(Gibney Dance: Agnes Varis Performing Arts Center) 117,130円</p>	<p>Manami Fukuoka Double plus performance series "Making Space" Fall 2015 Dance of a Trio November 6-November 24, 2015 New York (Gibney Dance: Agnes Varis Performing Arts Center) ¥117,130</p>
<p>藤原ちから 『演劇クエスト デュッセルドルフ編パイロット版』 @Nippon Performance Night 2015 2015年10月12日-11月2日 デュッセルドルフ(Forum Freies Theater) 97,827円</p>	<p>Chikara Fujiwara ENGEKI QUEST Düsseldorf pilot version @Nippon Performance Night 2015 October 12-November 2, 2015 Düsseldorf (Forum Freies Theater) ¥97,827</p>

森下スタジオのその他の利用者

(2015年4月1日-2016年3月31日)

Other users of Morishita Studio

(April 1, 2015- March 31, 2016)

日本語表記 五十音順

スタジオ / Studio () 利用日数 / number of days

イキウメ/エッチビイ株式会社(1)

ikiume/HB inc.

池内美奈子(6)

Ikeuchi Minako

岩淵貞太(3)

Iwabuchi Teita

大橋可也 & ダンサーズ(24)

Kakuya Ohashi and Dancers

Office A/LB(13)

カンパニーデラシネラ(128)

Company Derashinera

木佐 寛ダンスオフィス(3)

KISANUKI DANCE OFFICE

毛皮族(16)

KEGAWAZOKU

GERO(31)

小池博史ブリッジプロジェクト(24)

Hiroshi Koike Bridge Project

国際舞台芸術ミーティングin横浜 事務局(5)

Performing Arts Meeting in Yokohama 2016 Executive Committee

一般社団法人 Co.山田うん(31)

Co.Yamada Un

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co.(1)

Contact Improvisation Group C.I.co.

サンプル(5)

Sample

NPO法人ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク(8)

Japan Contemporary Dance Network

鈴木ユキオ プロジェクト(17)
YUKIO SUZUKI Projects

Elise Thoron(11)

tant-tantz(7)

NPO法人days(6)
days

Dance Theatre LUDENS(16)

NPO法人ドリフターズ・インターナショナル(3)
Specified Nonprofit Corporation DRIFTERS
INTERNATIONAL

富士山アネット(60)
FujiyamaAnnette

燐光群／(有) グッドフェローズ(15)
Theater company RINKOGUN/GOOD FELLOWS Inc.

ゲストルーム／Guest Room

Elise Thoron(14)

T-Factory(2)

Trajal Harrell(4)

振子びじん(23)
Pijin Neji

富士山アネット(54)
FujiyamaAnnette

燐光群／(有) グッドフェローズ(36)
Theater company RINKOGUN/GOOD FELLOWS Inc.

SPONSORSHIP,
CO-SPONSORSHIP
AND OTHER PROGRAMS

自主製作事業・共催事業等

自主製作事業

Sponsorship Programs

1 レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー（リサーチ・プログラム）

Residence in Morishita Studio
–Visiting Fellows (Research Program)



平成27年度

文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

Supported by the Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan, in the fiscal 2015

現代演劇・舞踊の海外ネットワークの拡大、相互理解の促進のため、重要な役割を担うことが期待される海外のアーティストやアーツ・マネジャー（プロデューサー、プログラム・ディレクター、プレゼンター、キュレーター等）を招聘し、森下スタジオのゲストルームを拠点とする滞在機会を提供。日本の現代演劇・舞踊の状況、背景、魅力を発見、理解してもらうために、日本との継続的な協働事業を視野に入れた日本の現代演劇・舞踊分野のリサーチを支援した。

We invited arts managers (producers, program directors, presenters, curators, etc.) from overseas who are expected to play important roles in expanding international network of contemporary theater and dance and in enhancing mutual understanding and offered them residence opportunities with the guest rooms of Morishita Studio as their base. To help the arts managers who are considering cooperative projects with Japan on a continuing basis discover and learn about the situation, background and attraction of Japanese contemporary theater and dance, we supported their research in these fields.



ワン・チョン

中国 劇作家・演出家、薪伝実験劇団
(Theatre du Rêve Experimental) 主宰
滞在期間: 2015年12月1日-2016年1月25日

ワン・チョンは中国出身で、劇作家、演出家として活動する。2008年、薪伝実験劇団を設立し、ドキュメンタリー演劇やマルチメディアの手法を取り入れた作品を創作。日本では、2013年、F/T公募プログラムで『地雷戦 2.0』を、2014年、F/T14で『ゴースト 2.0 〜イプセン「幽霊」より(Ghosts 2.0)』を発表した。

今回の滞在では、「日本のマルチメディア演劇」という研究テーマで、「ライブビデオ」「インタラクティブメディア」「ロボット」の3つの視点から日本の演劇をリサーチした。滞在中、マルチメディアの手法を取り入れた現代演劇やコンテンポラリーダンスの公演を視察し、伝統芸能の公演を鑑賞した。また、マルチメディアの手法に関する創作のアイデアについて、国内芸術家と意見交換を行った。

パブリック・トークでは、「演劇は21世紀に死の危機に瀕しているのか?」という問いをもとに、近年の作品シリーズ『ザ・ニュー・ウェーブ・シアター』についてプレゼンテーションした。

Wang Chong

Playwright/Director, Théâtre du Rêve Expérimental, China
Residency period: December 1, 2015–January 25, 2016

Wang Chong is a playwright and director from China. In 2008, he established the Théâtre du Rêve Expérimental to create documentary theater and multimedia works. In Japan, he presented *The Warfare of Landmine 2.0* in the Emerging Artists Program of Festival/Tokyo in 2013 and *Ghosts 2.0* in Festival/Tokyo in 2014.

His theme was "Multimedia Theater in Japan," and he researched Japanese theater from three angles, "live video," "interactive media" and "robot", seeing contemporary theater and dance works involving multimedia and traditional performing arts and exchanging ideas with Japanese artists about creation employing multimedia.

In his public talk based on his question, "Is theater dying in the 21st century?" he had a presentation about his recent creation series, *The New Wave Theater*.



ダヴィデ・ヴォンパク

フランス 振付家・ダンサー
滞在期間: 2016年2月1日-3月16日

ダヴィデ・ヴォンパクはフランス出身で、振付家・ダンサーとして活動する。2002年から振付の創作を始め、Montpellier Danse Festival (フランス)、ImPulsTanz Festival (オーストリア)、Biennale de Charleroi Danses (ベルギー)、Festival DANS (スウェーデン) 等、海外有数のフェスティバルや劇場で作品を発表している。

今回の滞在では、「テラヤマ・プロジェクト(寺山修司に関するリサーチ)」という研究テーマで、寺山修司の作品や活動に関わったアーティストと交流し、寺山修司の芸術的な世界観や哲学を探究するリサーチを行った。滞在中、天井棧敷の作品や活動に関わったアーティストや関係者と面会し、三沢市寺山修司記念館を訪問。また、演劇実験室万有引力の『奴婢訓』等を鑑賞したほか、寺山修司の作品の題材に取り上げられたボクシングを観戦した。

パブリック・トークでは、「欲望と氾濫」というテーマをもとに、これまでの作品や活動についてプレゼンテーションした。

David Wampach

Choreographer/Dancer, France
Residency period: February 1–March 16, 2016

David Wampach is a choreographer/dancer from France. He started choreography in 2002, and has presented works at important festivals and venues including Montpellier Danse Festival (France), ImPulsTanz Festival (Austria), Biennale de Charleroi Danses (Belgium) and Festival DANS (Sweden).

With his theme "TERAYAMA PROJECT (Research on the Japanese playwright, theater/film director, poet, essayist, Shuji Terayama [1935-1983])," he met artists who were involved in Terayama's works and activities and explored his artistic view and philosophy. He spoke with artists and people who worked with Tenjo Sajiki, Terayama's theater company, and visited Shuji Terayama Museum in Misawa, Aomori. He also saw *Nuhikun (Instruções aos Criados)* by Terayama, performed by Laboratory of Play Ban'Yu-Inryoku, and boxing, which was a sport that Terayama worked on as the theme of his work.

He had a presentation of his works and activities in his public talk entitled "Desire and Overflow."



シンティア・エドウル

アルゼンチン パノラマ・スール プログラム・ディレクター、劇作家、小説家
滞在期間：2015年7月6日-8月4日

シンティア・エドウルはアルゼンチン出身の劇作家、小説家で、ブエノスアイレスのフェスティバル「パノラマ・スール」のプログラム・ディレクターを務めている。

今回の滞在では、「日本とラテンアメリカのネットワーク、コネクション、コラボレーション」という研究テーマで、日本とアルゼンチンのアーティストのネットワークとコラボレーションを促すプロジェクトを立ち上げることを目的に、日本と南米の架け橋となるネットワークの構築についてリサーチを行った。滞在中、若手から中堅を中心に数多くの劇作家や演出家と面会し、将来の共同制作やコラボレーションの可能性を検証した。

パブリック・トークでは、「90年代から現在までのラテンアメリカにおけるアルゼンチンの舞台芸術の状況」というテーマで、アルゼンチンの美学に関する潮流と課題、文化マネジメントと組織化の新しい方法について解説した。



マーティン・デネワルド

ルクセンブルク/ドイツ
フェスティバル・テアターフォルメン
芸術監督
滞在期間：2015年10月19日-11月15日

撮影：Katrin Ribbe

マーティン・デネワルドはルクセンブルク出身で、2005年から5年間、ザルツブルク・フェスティバルの「Young Directors Project」でキュレーターを務め、その後、ムーゾントウム芸術家センターでドラマトウルクとして活動。2014年8月、「Festival Theaterformen」の芸術監督に就任し、若手のフェスティバル・ディレクターとして注目されている。

今回の滞在では、日本の演劇とパフォーマンスに関連する日本文化の知識を深めることを目的とし、「ヨーロッパにおける日本の演劇のキュレーション：文化の移動と翻訳の問題」という研究テーマで、アーティストの創作方法やプロセス、美学についてリサーチした。将来、フェスティバル・テアターフォルメンへの招聘を視野に入れ、滞在中、若手を中心に数多くの劇作家や演出家と面会した。

パブリック・トークでは、「私たちが共有する未来 フェスティバル・テアターフォルメンのアジア演劇の今日と明日」というテーマで、フェスティバル・テアターフォルメンを事例に、ドイツの観客に向けたアジアの演劇のキュレーションの可能性と課題について解説した。

Cynthia Edul

Program Director, Panorama Sur/Playwright/Fiction Writer, Argentina
Residency period: July 6–August 4, 2015

Cynthia Edul is a playwright/fiction writer from Argentina, and the program director of a festival in Buenos Aires, "Panorama Sur."

Her theme of the residency was "Network, connections and collaboration projects Japan-Latin America," and she researched on the possibility of networks that would become bridges between Japan and South America in order to establish a project that would promote networking and collaboration between Japanese and Argentine artists. She met a number of playwrights and directors, from emerging to experienced artists, and examined the possibility of future co-production and collaboration.

In her public talk entitled "Argentinean Scene in the context of the Latin-American Region. From the 90's till today," she explained the aesthetic currents and issues in Argentina and new methodologies of cultural management and organization.

Martine Dennewald

Artistic Director, Festival Theaterformen, Luxembourg/Germany
Residency period: October 19–November 15, 2015

Photo: Katrin Ribbe

Martine Dennewald, from Luxembourg, was a curator of "Young Directors Project" at the Salzburg Festival for five years since 2005, and worked as dramaturge at Künstlerhaus Mousonturm, and was appointed Artistic Director of "Festival Theaterformen" in August 2014. She has been drawing attention as a young festival director.

The theme of her residency was "Japanese Theater in Europe—issues of cultural transfer and translation," and she researched on the creation methodologies and aesthetics of artists in order to improve her knowledge about Japanese culture, theater and performance. In consideration of invitation to her festival in the future, she met a number of young playwrights and directors.

In her public talk, entitled "Our Common Futures—Asian Theatre at Festival Theaterformen, Today and Tomorrow," she explained the possibility and issues of the curation of Asian theater for German audiences by giving Festival Theaterformen as an example.

自主製作事業

Sponsorship Programs

2 舞台芸術の観客拡大策に関する研究会

Seminars on Audience Cultivation in Performing Arts

会期：2015年6月15日、7月16日、9月24日-25日、10月16日

会場：森下スタジオ

モデレーター：高宮知数(久留米シティプラザ 館長、
立教大学社会デザイン研究所 研究員)

劇場、フェスティバル等における観客の拡大策については、これまでも各所で様々な取り組みが行われてきたが、その効果については客観的に検証されることが少なく、経費対効果からみた成否ははっきりしないケースも少なくない。そのため、成果をあげた事例が共有され、さまざまな場で実践されることで舞台芸術全体の観客の拡大につながったとは、いまだ言い難い。全国の16団体から19名が参加したこの研究会では、この現状を踏まえ、具体的な事例をモデルケースとして取り上げ、参加者間の議論を通じて観客拡大のための新しい手法を検討し、レクチャー、討論、グループワークを経て、最終回には参加者それぞれが独自のプランを発表した。検討された施策のうち優れたものについては実際に試行し、効果を評価したうえで、各地での普及につなげていくことを最終的な目標としている。

Period:

June 15, July 16, September 24-25 and October 16, 2015

Venue: Morishita Studio

Moderator:

Tomokazu Takamiya (Director, Kurume City Plaza /
Researcher, Rikkyo Institute for Social Design Studies)

There have been various efforts to cultivate audiences of theaters and festivals, but the results have not been examined scientifically, and often the cost-effectiveness is ambiguous. Therefore, it cannot be said that effective practices have been shared to cultivate audiences in the performing arts sector as a whole. The seminars, in which 19 people from 16 groups across Japan participated, examined model cases in this context. New approaches for audience cultivation were discussed, and each participant had a presentation of their plan in the final session after lectures, discussions and group works. Excellent plans shall be carried out, and the results shall be evaluated, in order to disseminate them across Japan in the final stage of the project.

自主製作事業

Sponsorship Programs

3 ニュースレター「viewpoint」の刊行

Publishing of “viewpoint”

セゾン文化財団のニュースレター「viewpoint」では、セゾン・フェロー、舞台芸術界におけるインフラストラクチャーの整備、国際的な共同制作・公演事業、サバティカル（海外での休暇・充電）などの活動の成果を中心に、当財団の助成・共催事業に関連する論考、レポートを幅広く掲載している。毎号印刷版1,300部を芸術団体、自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンクタンク、研究者などに無料配布するほか、ウェブサイトでも公開している。（以下執筆者の所属、肩書等は掲載当時のものの。）

第71号（2015年7月発行）特集：日台文化交流をめぐって

- ・どうなるか分からなくても、やってみたらいいと思う。ー台湾・日本国際共同企画 川端康成三部作 台北・上海・東京公演報告
山縣美礼[ダンサー・声優・プロデューサー・演出家・俳優・翻訳家・語学講師・ライター]
- ・植物学系譜研究の十年ーアーティストとして日本と関わるまでの道のり
劉 亮延[りう・りゃんえん／詩人・劇作家・演出家]
- ・台湾のなかの「日本」：「日本時代」のデッサン
李 文茹[り・うえん／台湾・淡江大学外国語学院日本語学科アシスタント・プロフェッサー]
- ・Morishita Studio Report：特定非営利活動法人Explat設立記念イベント

第72号（2015年10月発行）特集：劇場の外へ

- ・路上のホームレスとXアパートメント
小川てつオ[アーティスト]
- ・「演劇クエスト」で世界をさまよう
藤原ちから[編集者・批評家・フリーランサー・Bricola Q主宰]
- ・拡張された場におけるパフォーマンス
星野 太[東京大学大学院総合文化研究科特任教授、慶應義塾大学文学部非常勤講師(美学／表象文化論)]
- ・Book Review：悪魔のしるし
『CARRY-IN-PROJECT 2008-2013 DOCUMENT: WORDS and IMAGES』

第73号（2015年12月発行）特集：「連歌」の思想と芸術交流

- ・既知の未知ー連歌的創作の可能性
一柳 慧[作曲家・ピアニスト・セゾン文化財団評議員]
- ・連歌が教えてくれるもの
阿部公彦[東京大学文学部准教授(英米文学研究)、文芸評論]
- ・二都物語ー往復書簡から始まった旅
ジョン・ジェスラン[劇作家・演出家・メディアアーティスト]、川村 毅[劇作家・演出家・ティーファクトリー主宰]

・Information: ダンスアーカイブボックス@TPAM2016 国際舞台芸術 ミーティング in 横浜 2016 TPAM ディレクション/ 中島那奈子 ディレクション

第74号(2016年3月発行) 特集: 正直、オリンピックってどうですか?

・会議

伊藤千枝[ダンサー・振付家・演出家・珍しいキノコ舞踊団主宰、桜美林大学非常勤講師]

・2020年 東京オリンピック

川村美紀子[ダンサー・振付家]

・人生の意味、文化芸術の意味

霜田誠二[アーティスト、ニパフ・ディレクター、武蔵野美術大学造形学部・慶應義塾大学文学部非常勤講師]

・文化芸術途上国として

多田淳之介[演出家、東京デスロック主宰、四国学院大学非常勤講師]

・アーティストと予算と格好良さについて

塚原悠也[アーティスト、contact Gonzo主宰]

・文化の向かう先

振子びじん[舞踏家]

・“Rest In Peace, Tokyo”

羊屋白玉[演出家・劇作家・俳優、「指輪ホテル」芸術監督]

・オリンピックのこと

平田オリザ[劇作家・演出家、城崎国際アートセンター芸術監督、こまばアゴラ劇場芸術総監督、劇団「青年団」主宰、東京藝術大学COI研究推進機構特任教授、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 客員教授、四国学院大学客員教授・学長都別補佐]

・問われる企画力

三浦 基[演出家、劇団「地点」代表]

・ロンドン五輪から生まれたうねりを体感して

南村千里[コンセプチュアルダンスアーティスト、芸術解説者]

・オリンピックなんて知らない

山本卓卓[範田遊泳代表・劇作家・演出家]

・Information: セゾン文化財団 事務所移転のお知らせ

The Saison Foundation's newsletter viewpoint carries a wide range of reports and essays, including those on the outcome of projects supported by the Foundation. 1,300 copies are published for each issue, which are circulated free of charge to art organizations, local and national government offices, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc., and uploaded to the Foundation's website. (The following titles and organizations of the writers are of those at the time of publication.)

Issue No. 71 (July 2015) Feature: Cultural Exchange between Japan and Taiwan

- Do It Even If You're Uncertain How It Will Turn Out – Report on the Taipei-Shanghai-Tokyo Performance Tour of the Yasunari Kawabata Trilogy Taiwan-Japan International Collaboration Project by Mirei Yamagata, Dancer, Voice Artist, Producer, Director, Actor, Translator, Language Instructor, Writer
- A Decade of Botanical Genealogy Research – How I Became Involved With Japan as an Artist by Liu Liang-Yen, Poet, Playwright, Theatre Director
- The “Japan” Within Taiwan: Sketches of the “Japanese Era” by Lee WenJu, Assistant Professor, Department of Japanese, Tamkang University, Taipei
- Morishita Studio Report: Kick-off event of the non-profit organization Explat

Issue No. 72 (October 2015) Feature: Going Outside the Theater Hall

- The Homeless on the Streets and X Apartments by Tetsuo Ogawa, Artist
- Wander around the World through *Engeki Quest* by Chikara Fujiwara, Editor, Theater and Dance Critic, Chief of Bricola Q
- Performance in the Expanded Field by Futoshi Hoshino, Project Assistant Professor, Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo; Lecturer, Faculty of Letters, Keio University (Aesthetics, Studies of Culture and Representation)
- Book Review: *CARRY-IN-PROJECT 2008-2013 DOCUMENT: WORDS and IMAGES* by Akumanoshirushi

Issue No. 73 (December 2015) Feature: The Idea of Renga/Renshi (Japanese linked poetry) and Arts Exchange

- The Known Unknown – The Potential of Renga as a Creative Method by Toshi Ichianagi, Composer, Pianist, Trustee of The Saison Foundation
- What *Renshi* May Tell Us About by Masahiko Abe, Associate Professor, University of Tokyo (British and American Literature Studies); Literary Critic
- A Tale of Two Cities – The Journey That Began from Correspondence Co-written by John Jesurun, Playwright, Director, Media Artist, and Takeshi Kawamura, Playwright, Director, Artistic Director of T Factory
- Information: Dance Archive Box at TPAM 2016 in

Issue No. 74 (March 2015) Feature: Frankly Speaking, What Do You Think about the Olympics?

- A Conference
by Chie Ito, Dancer, Choreographer, Director; Artistic Director of Strange Kinoko Dance Company; Lecturer at J.F. Oberlin University
- 2020 Tokyo Olympics
by Mikiko Kawamura, Dancer and Choreographer
- The Meaning of Life, the Meaning of Culture and Arts
by Seiji Shimoda, Artist, NIPAF Director; Lecturer at Musashino Art University and Keio University
- As a Culturally and Artistically Backward Nation
by Junnosuke Tada, Director, Artistic Director of Tokyo Deathlock; Lecturer at Shikoku Gakuin University
- About Artists, Budgets, and Coolness
by Yuya Tsukahara, Artist, Artistic Director of contact GONZO
- Where Culture Should Be Headed To
by Pijin Neji, Butoh Dancer and Choreographer
- "Rest In Peace, Tokyo"
by Shirotama Hitsujiya, Director, Playwright, Actor, Artistic Director of Yubiwa Hotel
- About Olympics
by Oriza Hirata, Playwright, Director; Artistic Director of Kinohashi International Arts Center; Artistic Director of Komaba Agora Theater; Founder and Leader of Seinendan; Project Professor at Tokyo University of the Arts Center of Innovation; Visiting Professor, Osaka University Center of the Study of Communication-Design; Visiting Professor and Special Counsel to the President of Shikoku Gakuin University
- Planning Skills That Need to Be Answered
by Motoi Miura, Director, Leader of Chiten
- Experiencing the Surge of the London Olympics
Chisato Minamimura, Conceptual Dance Artist, British Sign Language (BSL) Art Presenter
- Don't Know Anything about the Olympics
by Suguru Yamamoto, Leader of Hanchu-Yuei, Playwright, Director
- Announcement: New location of The Saison Foundation's Office

共催事業・協力事業

Co-Sponsorship Programs and Cooperative Programs

[共催事業]

英語ワークショップ

リアル・アーティストカンパセーション・ワークショップ(RAC)

共催: プリティッシュ・カウンシル

会期: 2015年5月15日～7月17日

会場: 森下スタジオ新館 ラウンジ

アーティストおよび制作者を対象とした英語ワークショップ。プリティッシュ・カウンシルの講師派遣による協力のもと、約2ヶ月間で10回実施した。セゾン・フェローなど助成対象者を中心に計10名が参加した。英語でのコミュニケーション向上を目標に、実践的なロールプレイやプレゼンテーションの準備・発表に多く時間を割くことで、活動によって何を実現したいかについて参加者が考え直す機会にもなっている。

庭劇団ベニノ 演劇公演「地獄谷温泉 無明ノ宿」

共催: 庭劇団ベニノ、合同会社アルシュ

会期: 2015年8月27日～8月30日

会場: 森下スタジオ

作・演出: タニノクロウ

2008-2014年度セゾン・フェローのタニノクロウが主宰する庭劇団ベニノの新作公演の創作および発表の場として森下スタジオCスタジオを、7月1日から8月31日まで62日間提供。本公演に先行して、8月20日から24日までプレビュー上演「お得に楽しむ会」も実施。本公演では832名を動員した。好評を受け、次年度の海外からの招へいも決まった。また、本作品は第60回岸田國士戯曲賞を受賞。

[協力事業]

2015年共催事業「ダンス・アーカイブの手法」のフォローアップ事業

2014年に文化庁との共催により実施されたセミナー、ワークショップ「ダンス・アーカイブの手法」の成果を受け、そこから発展した3つの事業に協力した。

シンガポール国際芸術祭2015

「ダンス・マラソン オープン・ウィズ・ア・バンクスピリット!」

会期: 2015年8月21日～9月5日

主催: シンガポール国際芸術祭

展示「Who Dance? 振付のアクチュアリティ」

会期: 2015年10月1日～2016年1月31日

主催: 早稲田大学演劇博物館

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 TPAMディレクション/中

島那奈子ディレクション「ダンスアーカイブボックス@TPAM2016」

会期: 2016年1月30日～2月14日

主催: 国際舞台芸術ミーティングin横浜2016実行委員会

[Co-Sponsorship Programs]

Real Artist Conversations

Co-organizer: British Council

Period: May 15 – July 17, 2015

Venue: Morishita Studio, annex lounge

English conversation workshop for artists and managers. British Council offered cooperation by dispatching an instructor. This year we had ten classes in about two months, in which ten people, mainly our grantees including Saison Fellows, participated. In order to improve English communication skills, the training features practical role plays and presentations, which are useful also as opportunities for participants to reflect on what they want to achieve through their activities.

Performance of Avidya

–The Dark Inn by Niwa Gekidan Penino

Co-organizers: Niwa Gekidan Penino, Arche LLC.

Period: August 27–August 30, 2015

Venue: Morishita Studio

Written and directed by Kuro Tanino

We offered the Studio C at Morishita Studio for the creation and performances of the new work by Niwa Gekidan Penino, led by the 2008–2014 Saison Fellow, Kuro Tanino, for 62 days from July 1 to August 31. Including the audience members who came to the preview shows from August 20 to 24, 832 people in total saw the work, which was well received and invited to festivals and venues abroad. The work also received the 60th Kishida Kunio Drama Award.

[Cooperative Projects]

Follow-Up Projects for “Archiving Dance,” a Co-Sponsorship Project in 2015

Following the outcomes of the seminars and workshops “Archiving Dance” co-organized with the Agency for Cultural Affairs in 2014, we cooperated with three projects that stemmed from the project.

Dance Marathon: OPEN WITH A PUNK SPIRIT! (Singapore International Festival of Arts 2015)

Period: August 21–September 5, 2015

Organizer: Singapore International Festival of Arts

Exhibition: Who Dance? Actuality of Choreography

Period: October 1, 2015–January 31, 2016

Organizer: The Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University

TPAM Direction: Nanako Nakajima Direction “Dance Archive Boxes @TPAM2016 (Performing Arts Meeting in Yokohama 2016)”

Period: January 30–February 14, 2016

Organizer: Performing Arts Meeting in Yokohama 2016 Executive Committee

REVIEW OF ACTIVITIES
FINANCIAL REPORT
TRUSTEES, DIRECTORS,
AUDITORS AND ADVISER

事業日誌

会計報告

評議員・理事・監事・顧問名簿

2015年

- 3月23日 2015年《現代演劇・舞踏公募プログラム》フライト・グラント〈前期〉募集開始
- 4月16日 2015年《現代演劇・舞踏公募プログラム》フライト・グラント〈前期〉申請締切
- 5月19日 第20回理事会開催(2014年度事業報告、財務諸表および同附属明細書並びに財産目録報告、事業執行および法人管理の状況報告他)
- 6月18日 第7回評議員会開催(2014年度事業報告、財務諸表および同附属明細書並びに財産目録報告、事業執行および法人管理の状況報告他)
- 8月3日 2016年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》募集開始
- 8月18日 2015年《現代演劇・舞踏公募プログラム》フライト・グラント〈後期〉募集開始
- 9月13日 2015年《現代演劇・舞踏公募プログラム》フライト・グラント〈後期〉申請締切
- 9月24日 2016年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》セゾン・フェロー申請締切
- 10月22日 2016年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》サバティカル/パートナーシップ・プログラム/ヴィジティング・フェロー申請締切
- 11月6日 第21回理事会開催(アドバイザー委員選出の件)
- 12月21日 2016年度アドバイザー・ミーティング開催

2016年

- 1月18日 第22回理事会開催(2016年度事業計画及び収支予算、事業執行および法人管理の状況報告他)
- 1月19日 2015年度助成対象者懇親会を森下スタジオ新館にて開催
- 1月20日 2016年度助成等決定発表
- 2月8日 事務局移転(銀座から京橋へ)

2015

- March 23 Application period for the 2015 Contemporary Theater and Dance Grant Awards: Flight Grant (first term) begins
- April 16 Application deadline for the 2015 Contemporary Theater and Dance Grant Awards: Flight Grant (the first term)
- May 19 The 20th Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and management, settlement of accounts for fiscal year 2014; report on the current state of activities and management of the foundation, etc.)
- June 18 The 7th Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and management, settlement of accounts for fiscal year 2014; selection of Trustees, Directors, and Auditors, etc.)
- August 3 Application period for the 2016 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program begins
- August 18 Application period for the 2015 Contemporary Theater and Dance Grant Awards: Flight Grant (the later term) begins
- September 13 Application deadline for the 2015 Contemporary Theater and Dance Grant Awards: Flight Grant (the later term)
- September 24 Application deadline for the 2016 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards: Saison Fellows
- October 22 Application deadline for the 2016 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio/Guestroom Awards: Sabbatical / Partnership / Visiting Fellows Programs
- November 6 The 21th Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: Selection of members of the Advisory Meeting)
- December 21 Advisory meeting for the 2016 Contemporary Theater Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program held in Tokyo

2016

- January 18 The 22nd Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2016; report on the current state of activities and management of the foundation, etc.)
- January 19 Party for 2015 Grantees at Morishita Studio
- January 20 Announcement of 2016 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program
- February 8 The foundation office moves from Ginza to Kyobashi

正味財産増減計算書
2015年4月1日－2016年3月31日

NET ASSETS VARIATION
STATEMENT
from April 1, 2015 to
March 31, 2016

単位: 円 / in yen

I 経常収益の部	Ordinary Revenue	
基本財産運用収入	Investment income from endowment fund	200,254,785
特定目的資産運用収入	Investment income from designated fund	6,250,229
賃貸収入	Income from lease	12,879,234
その他の収入	Other income	7,466,348
経常収益計	Total Ordinary Revenue	226,850,596
II 経常費用の部	Ordinary Expenses	
事業費	Program services	191,262,016
(うち助成金)	Grant	63,516,917)
管理費	Management and general	51,399,057
経常費用計	Total Ordinary Expenses	242,661,073
評価損益等計	Total of Profit and Loss on Appraisal	△ 508,494,591
当期経常増減額	Current Change in Ordinary Profit	△ 524,305,068
当期経常外増減額	Current Change in Extraordinary Profit	△ 3
当期正味財産増減額	Current Change in Net Assets	△ 524,425,071

貸借対照表
2016年3月31日現在

BALANCE SHEET
as of March 31, 2016

単位: 円 / in yen

I 資産の部	ASSETS	
1. 流動資産	Current assets	84,489,718
現金預金	Cash	1,120,231
未収収益等	Accrued revenue	85,609,949
流動資産合計	Total current assets	
2. 固定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment	
土地	Land	2,556,129,607
有価証券	Securities	6,179,685,802
基本財産合計	Total endowment fund	8,735,815,409
特定目的資産	Designated fund	476,075,732
その他の固定資産	Other fixed assets	385,862,934
固定資産合計	Total fixed assets	9,597,754,075
資産合計	TOTAL ASSETS	9,683,364,024
II 負債の部	LIABILITIES	
負債合計	TOTAL LIABILITIES	53,820,600
III 正味財産の部	NET ASSETS	
正味財産	Net assets	9,629,543,424
(うち当期正味財産増加額)	Increase of assets	△ 524,425,071)
負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	9,683,364,024

資金助成の概況

Summary of Grants
1987-2015

分野 category	年度 year	申請件数 number of applications	助成件数 number of grants	助成金額(円) grants in yen
現代演劇・舞踊助成 Contemporary Theater and Dance Program Grants	1987-11	3,819	927	2,100,418,866
	2012	184	45	55,100,000
	2013	151	45	53,900,000
	2014	206	54	52,134,519
	2015	194	53	57,016,917
	累計 total	4,554	1,124	2,318,570,302
非公募助成 Designated Fund Program Grants	1987-2011		219	753,353,449
	2012		2	4,900,000
	2013		2	6,500,000
	2014		3	7,621,503
	2015		2	6,500,000
	累計 total		228	778,874,952
合計 grand total			1,352	3,097,445,254

2015年度[現代演劇・舞踊公募プログラム]の申請・採択状況

Data on Contemporary Theater and Dance Programs in 2015

プログラム programs	芸術家への直接支援 Direct Support to Artists		パートナーシップ・プログラム Partnership Programs		フライト・ グラント Flight Grant	合計 Total	ヴィジティング・ フェロー Visiting Fellows	
	セゾン・フェロー Saison Fellows		サバティカル (休暇・充電) Sabbatical Program	創造環境整備 Creative Environment Improvement Program	国際 プロジェクト 支援 International Projects Support Program			
	ジュニア・ フェロー Junior Fellows	シニア・ フェロー Senior Fellows						
申請件数 number of applications	80* (50/26/4)	22* (15/6/1)	2	27	35*	28	194	41
助成件数 number of awards	13* (9/4/0)	9* (4/4/1)	0	11	11*	9	53	4
助成金額(円) grants in yen	13,000,000	23,833,005	0	7,200,000	12,300,000	683,912	57,016,917	-

* 継続を含む Including extended grants
(演劇 / 舞踊 / パフォーマンス) (theater / dance / performance)

評議員・理事・監事・顧問名簿
(2016年6月末現在／五十音順)

TRUSTEES, DIRECTORS, AUDITORS AND ADVISER
(as end of June 2016 / in alphabetical order)

評議員

石井 達朗	舞踊評論家
一柳 慧	作曲家／ピアニスト／公益財団法人神奈川芸術文化財団 芸術総監督
植木 浩	一般社団法人 現代舞踊協会会長
内野 儀	東京大学大学院総合文化研究科 教授
小池 一子	武蔵野美術大学 名誉教授／十和田市現代美術館館長
佐藤 俊一	パイオニア株式会社取締役
堤 たか雄	一般財団法人セゾン現代美術館 代表理事
沼野 充義	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
松岡 和子	演劇評論家／翻訳家
水落 潔	演劇評論家
山崎 正和	評論家／劇作家
林野 宏	株式会社クレディセゾン 代表取締役社長

理事・監事

理事長	
伊東 勇*	元・株式会社バルコ 取締役兼代表執行役会長

副理事長	
堤 麻子	一般財団法人セゾン現代美術館 評議員

常務理事

片山 正夫*	
理事	
鎌岡 正謹	岡山県立美術館 顧問
堤 康二	株式会社バルコ エンタテインメント事業部 制作顧問
中野 晴啓	セゾン投信株式会社 代表取締役社長
北條 慎治	元・株式会社クレディセゾン 常務取締役
渡邊 紀征	元・株式会社西友 取締役会議長・代表執行役

監事	
伊藤 醇	公認会計士
三宅 弘	弁護士

顧問	
堤 彌二	株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル 代表取締役会長

*常勤

TRUSTEES

Toshi Ichianagi	Composer and Pianist; General Artistic Director, Kanagawa Arts Foundation
Tatsuro Ishii	Dance Critic
Kazuko Koike	Professor Emeritus, Musashino Art University; Director, Towada Art Center
Kazuko Matsuoka	Theater Critic and Translator
Kiyoshi Mizoochi	Theater Critic
Mitsuyoshi Numano	Professor, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo
Hiroshi Rinno	President and Chief Executive Officer, Credit Saison Co., Ltd.
Shunichi Sato	Director, Pioneer Corporation
Takao Tsutsumi	President, Sezon Museum of Modern Art
Tadashi Uchino	Professor, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo
Hiroshi Ueki	President, Contemporary Dance Association of Japan
Masakazu Yamazaki	Critic and Playwright

DIRECTORS AND AUDITORS

PRESIDENT	
Isamu Ito*	Former Member of the Board and Representative Executive Officer, Parco Co., Ltd.

VICE PRESIDENT	
Asako Tsutsumi	Trustee, Sezon Museum of Modern Art

MANAGING DIRECTOR	
Masao Katayama*	

DIRECTORS	
Shinji Houjyou	Former Managing Director, Credit Saison Co., Ltd.
Masanori Kagioka	Adviser, Okayama Prefectural Museum of Art
Haruhiro Nakano	President and Chief Executive Officer, Saison Asset Management Co., Ltd.
Koji Tsutsumi	Production Adviser, Entertainment Department, Parco Co., Ltd.
Noriyuki Watanabe	Former Chairman of the Board and Representative Executive Officer, Seiyu Co., Ltd.

AUDITORS	
Jun Ito	Certified Public Accountant
Hiroshi Miyake	Attorney at Law

ADVISER	
Yuji Tsutsumi	Chairman & CEO, Yokohama Grand Inter Continental Hotel Co., Ltd.

*full-time

公益財団法人セゾン文化財団

設立年月日 1987年7月13日
正味財産 9,629,543,424円(2016年3月31日現在)

常務理事 片山正夫

事務局長／事業部長 久野敦子

事業部	岡本純子	プログラム・オフィサー
	堤 治菜	プログラム・オフィサー
	稲村太郎	プログラム・オフィサー

管理部	福雷達夫	管理部長／森下スタジオ ジェネラル・マネジャー
	橋本美那子	アドミニストレーター
	坂上孝男	アドミニストレーター

斉藤邦彦	森下スタジオ マネジャー
前川裕美	森下スタジオ マネジャー
上田 亘	森下スタジオ マネジャー
橋本真也	森下スタジオ アシスタント・マネジャー

2015年度 事業報告書

2016年10月発行

公益財団法人セゾン文化財団
〒104-0031 東京都中央区京橋3-12-7 京橋山本ビル4階
TEL: 03(3535)5566 FAX: 03(3535)5565
foundation@saizon.or.jp
http://www.saizon.or.jp

翻訳 新井知行 P.33, 35, 37: 福雷達夫
デザイン 新保慶太+新保美沙子(smbetsmb)

THE SAISON FOUNDATION

Date of Establishment July 13, 1987
Net assets ¥9,629,543,424 (as of March 31, 2016)

Managing Director Masao Katayama

General Manager / Program Director Atsuko Hisano

Program	Junko Okamoto	<i>Program Officer</i>
	Haruna Tsutsumi	<i>Program Officer</i>
	Taro Inamura	<i>Program Officer</i>

Administration	Tatsuo Fukutomi	<i>Administrative Manager / General Manager, Morishita Studio</i>
	Minako Hashimoto	<i>Administrator</i>
	Takao Sakagami	<i>Administrator</i>

Kunihiko Saito	<i>Manager, Morishita Studio</i>
Hiroshi Maekawa	<i>Manager, Morishita Studio</i>
Wataru Ueda	<i>Manager, Morishita Studio</i>
Shinya Hashimoto	<i>Assistant Manager, Morishita Studio</i>

ANNUAL REPORT 2015

Published: October 2016

THE SAISON FOUNDATION
Kyobashi Yamamoto Bldg. 4F, 3-12-7 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan
TEL: +81 3 (3535) 5566 FAX: +81 3 (3535) 5565
foundation@saizon.or.jp
http://www.saizon.or.jp/english

Translated by
Tomoyuki Arai, P.33, 35, 37: Tatsuo Fukutomi

Designed by
Keita Shimbo + Misako Shimbo (smbetsmb)